

<http://www.josai.jp/>

東京紀尾井町キャンパス
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26
TEL. 03-6238-1300

城西大学
城西短期大学 <http://www.josai.ac.jp/>

坂戸キャンパス
〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1
TEL. 049-286-2233

城西国際大学 <http://www.jiu.ac.jp/>

東金キャンパス
〒283-8555 千葉県東金市求名1 番地
TEL. 0475-55-8800

安房キャンパス
〒299-2862 千葉県鴨川市太海 1717
TEL. 04-7098-2800

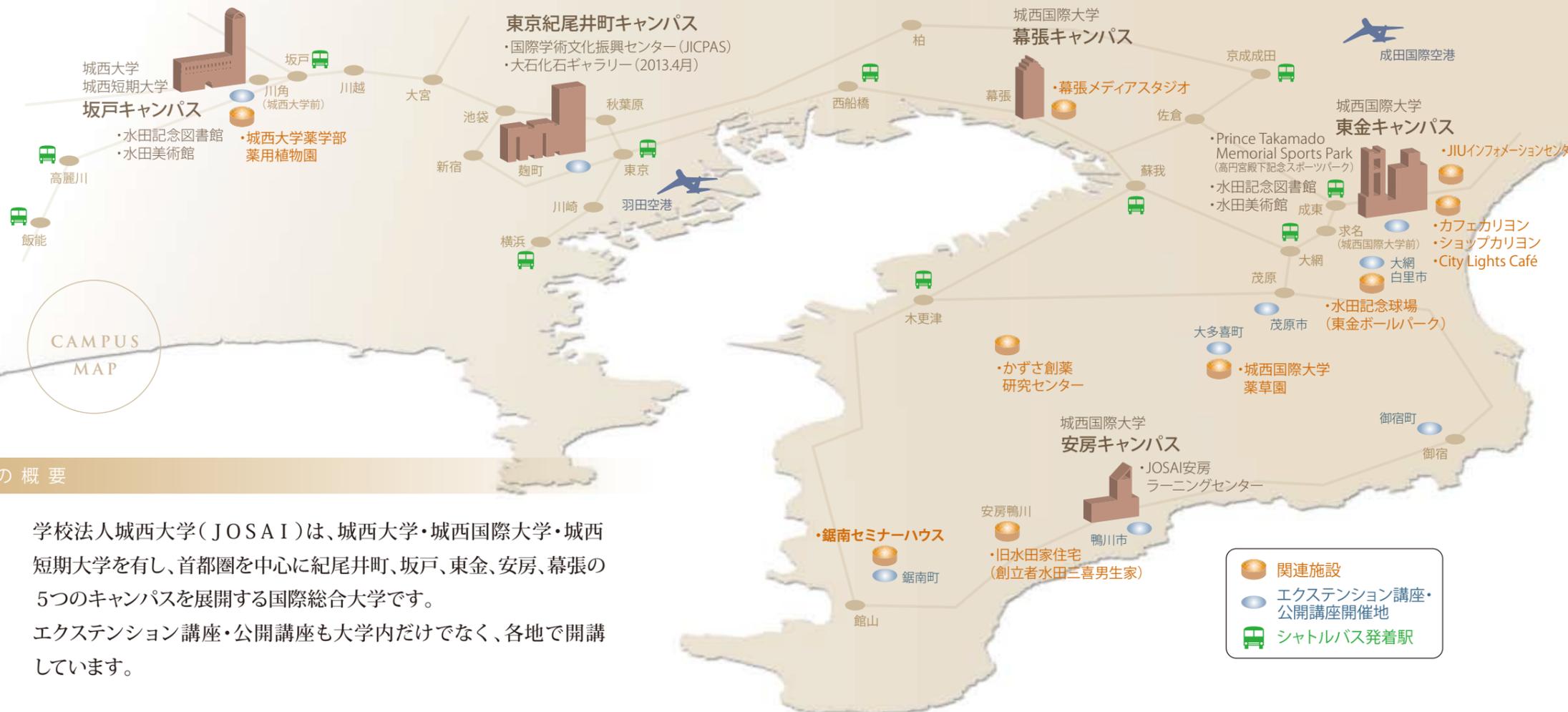
幕張キャンパス
〒261-0023 千葉県千葉市美浜区中瀬 1-7-1
住友ケミカルエンジニアリングセンタービル 22 階
TEL. 043-297-2521



次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み

大学の社会的責任を果たすために

2012 JOSAI UNIVERSITY
JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY
JOSAI JUNIOR COLLEGE



大学の概要

学校法人城西大学(JOSAI)は、城西大学・城西国際大学・城西短期大学を有し、首都圏を中心に紀尾井町、坂戸、東金、安房、幕張の5つのキャンパスを展開する国際総合大学です。
 エクステンション講座・公開講座も大学内だけでなく、各地で開講しています。

城西大学

坂戸キャンパス

- 経済学部 経済学科
- 現代政策学部 社会経済システム学科
- 経営学部 マネジメント総合学科
- 理学部 数学科
- 化学科
- 薬学部 薬学科(6年制)
- 薬科学科(4年制)
- 医療栄養学科
- 大学院 経済学研究科 (経済政策専攻修士課程)
- 経営学研究科 (ビジネス・イノベーション専攻修士課程)
- 理学研究科 (数学専攻修士課程)
- 理学研究科 (物質科学専攻修士課程)
- 薬学研究科 (薬学専攻博士課程)
- 薬学研究科 (薬科学専攻博士前期課程・博士後期課程)
- 薬学研究科 (医療栄養学専攻博士前期課程)
- 別科 日本語専修課程
- 日本文化専修課程

城西国際大学

東金キャンパス

- 経営情報学部 総合経営学科
- 国際人文学部 国際文化学科
- 国際交流学科
- 福祉総合学部 福祉総合学科
- 薬学部 医療薬学科(6年制)
- メディア学部 メディア情報学科
- 環境社会学部 環境社会学科
- 看護学部 看護学科
- 大学院 人文科学研究科 (国際文化専攻修士課程・女性学専攻修士課程・比較文化専攻博士後期課程・グローバルコミュニケーション専攻修士課程)
- 国際アドミニストレーション研究科 (国際アドミニストレーション専攻修士課程)
- 経営情報学研究科 (起業マネジメント専攻修士課程・同博士後期課程)
- ビジネスデザイン研究科 (ビジネスデザイン専攻修士課程)
- 福祉総合学研究科 (福祉社会専攻修士課程)
- 薬学研究科 (医療薬学専攻(博士課程 4年制))
- 留学生別科 日本文化・ビジネス専修課程
- 日本語専修課程

安房キャンパス

- 観光学部 ウェルネスツーリズム学科

幕張キャンパス

- メディア学部 メディア情報学科
- 国際人文学部 国際文化学科 (中国言語文化・韓国言語文化コース1年次)

城西短期大学<城西ベースカレッジ>

- 坂戸キャンパス・東京紀尾井町キャンパス
- ビジネス総合学科

東京紀尾井町キャンパス
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26
TEL.03-6238-1300

坂戸キャンパス
〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1
TEL.049-286-2233

東金キャンパス
〒283-8555 千葉県東金市求名 1 番地
TEL.0475-55-8800

安房キャンパス
〒299-2862 千葉県鴨川市太海 1717
TEL.04-7098-2800

幕張キャンパス
〒261-0023 千葉県千葉市美浜区中瀬 1-7-1
住友ケミカルエンジニアリングセンタービル 22 階
TEL.043-297-2521

CONTENTS

3 理事長 緒言
次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み
大学の社会的責任を果たすために

地域・社会貢献活動

- 5 JIU創立20周年記念
- 7 美術館・博物館
- 9 埼玉・坂戸地域の活性化
- 12 東金・千葉地域の活性化
- 16 鴨川地域への貢献
- 17 産学官連携

国際社会への貢献

- 23 中欧との交流
- 25 中国との交流
- 27 アジアとの交流
- 29 広がる国際交流

文化振興・文化資源保存活動

- 31 子どもたちとともに(次世代育成)
- 36 文化・出版を通しての貢献、建築賞受賞
- 41 Message
- 42 編集後記



学校法人城西大学
理事長
水田宗子

次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み 大学の社会的責任を果たすために

学校法人城西大学は、城西大学・城西国際大学・城西短期大学を持ち、首都圏を中心に5つのキャンパス(紀尾井町、坂戸、東金、鴨川、幕張)において、大学としての社会的責任を果たすべく、次世代育成、健康推進、グローバル教育をキーワードに、大学における教育・研究に加えて、地域・社会貢献、文化振興・文化資源保存活動、国際社会への貢献など、多岐にわたって活発な活動を展開してまいりました。

2012年度におけるこれらの代表的な取り組みについて本冊子に紹介しましたので、ご覧ください。

地域・社会貢献活動 各キャンパスにおいて、地域の社会や文化・教育・環境保護などに貢献する活動を幅広く行なっています。また、大学の学部や立地などの特徴をいかしたエクステンション講座を学内・外で開講し、毎年多くの受講生で賑わっています。

城西大学では、創立50周年に向けて、地域・行政と連携した「高麗川プロジェクト」を策定して様々な教育関連活動を行うとともに、一昨年に開設した水田美術館にて、高円宮妃殿下特別展をはじめ様々な企画展を行い、多くの方にお越しいただきました。

城西国際大学は昨年4月に創立20周年を迎え、1年を通してさまざまな学術シンポジウムや国際交流活動、各種イベント等を積極的に展開しました。

産学官連携では日活やエイベックス・プランニング&デベロップメント社との提携により、本学ならではの特長ある人材育成プログラムを推進しています。2012年12月には住友化学株式会社と、寄付講座を含む日中間の文化・教育交流に関する覚書も締結しました。また、産学官協働事業の拠点となるイノベーションセンターの設立や、世界でリーダーシップを発揮できる人材育成教育を目的とした大学院センターの開設等を行い、活発に活動しています。

さらに、政策提言活動として2013年2月には、本学東京紀尾井町キャンパス地下ホールにおいて「V4(ヴィシエグラード4)+日本 東方パートナーシップ・セミナー」が、外務省、V4諸国、本学の共催により開催されました。

なお、2013年4月には東京紀尾井町キャンパスに3号棟を開設し、本学が取り組む「幅広い教養と深い専門性を持ち、問題解決にあたる国際的な人材育成」のさらなる強化と国際教育の充実を図ります。

国際社会への貢献 国際性・専門性を備えたグローバル人材の育成を目指して、世界各地の大学と教育ネットワークを結び、各種の国際教育プログラムを積極的に実施しています。

その中でも、本学は特に中欧とアジアにおける教育交流を強化しており、昨年度は、チェコやタイ、インドネシアの大学とも新たに学術交流協定を締結し、国際交流を通じたグローバル人材育成にもさらに力を入れてきました。

また、これまでの教育交流に関する貢献が認められて、水田理事長が中国やハンガリーの大学から特別名誉教授や名誉教授等の称号を贈られました。

その他の国や地域との交流も進み、今年度は海外の11大学と新たに学術交流協定を締結しました。今後のさらなる国際教育交流ネットワークの充実・強化が期待されます。

文化振興・文化資源保存活動 学校法人城西大学は、両大学に水田記念美術館を有し、創立者水田三喜男の浮世絵コレクションの一般公開をはじめ、地元ゆかりの画家の特別展を催しており、多くの方々にご来場いただいております。

そして、紀尾井町キャンパス3号棟には、数々の貴重な化石標本を収蔵する「大石化石ギャラリー」も併設します。また、2006年にはじまった、外房と内房をつなぐ生活道路である嶺岡林道の桜並木の修復もJIU観光学部と地元の方々と一緒に、桜並木が鋸南町まで続くよう大切に大きく育てています。

各キャンパスや施設の景観にも心を砕き、いくつもの建築賞(清光会館:1992年さいたま景観賞、鋸南セミナーハウス:第12回千葉県建築文化賞/第32回東京建築賞建築作品コンクール優秀賞、JIUランドスケープデザイン:1996年日本建築学会賞・2006年日本造園学会賞、旧水田家住宅:第10回千葉県建築文化賞、JU経営学部棟:2008年米国建築家協会Merit賞、城西大学水田美術館:2012年米国建築家協会Merit賞、他)を受賞しています。

城西大学は2015年に創立50周年を迎えます。昨年、本学は、幅広い教養と深い専門性を持ち、問題解決にあたる国際的な人材を育成し、アジア・世界でのリーディング・ユニバーシティになることを中期目標《J-Vision》として掲げました。この目標の実現に向けて、全学一丸となって取り組んでいます。

そして、これまでの地道な活動を大切にしつつ、これからも継続的に、次世代に文化を伝え、人材を育成し、健康で豊かな暮らしのため大学の「知の還元」をはかり、国内外の文化・研究交流の推進に取り組んでまいります。

本冊子を通して、学校法人城西大学の取り組みについてご理解いただければ幸いです。

学校法人城西大学
理事長

水田宗子

JIU創立20周年記念

城西国際大学創立20周年の記念式典を挙げる

2012年4月28日、城西国際大学東金キャンパスにて地元自治体の皆様、海外姉妹校の皆様など大勢の方々のご臨席を賜り「創立20周年記念式典」を挙りました。

昼にはご来賓の方々をお迎えし、スポーツ文化センターにおいて盛大な祝賀会が開催されました。今回の祝賀会では観光学部で学ぶ1年生と2年生の計55名が参加し、ホスピタリティサービスの実践の場として、世界の国々の料理をお客様にサーブしました。

当日は学内においてさまざまなイベントが催され、福祉総合学部による「こども劇場」や経営情報学部による「留学生 祝賀会のようなとめぐるスタンプラリー」、大学敷地内にある万葉の杜では日本研究センターにより万葉の杜や石碑を散策するショートツアーが行われました。また、午後からは、水田記念ホールにおいてハンガリー文化センターによる東日本大震災復興祈念コンサート、メディア学部と韓国・東西大学の共同制作による映画『冬の花火』の上映会が開催されました。

そのほか、野外ステージでは、大関琴歐洲関も参加した「祝いの餅投げ」をはじめとして、白子太鼓衆「楽」による和太鼓の演奏、チャリティーバザー、父母後援会による全国物産展、地元企業による食品販売など多彩な催しが開催され、日頃からご支援をいただいている地域の皆様とともに盛大に20周年を祝う一日となりました。



海外姉妹校を招いて「世界学長会議」開催

2012年4月29日、東京紀尾井町キャンパス地下ホールにて城西国際大学創立20周年記念「世界学長会議」が開催されました。

会議には、本学海外姉妹校より9ヶ国の地域の12大学の学長や代表を招待し、「世界の転換期における大学の役割と人材育成」をメインテーマに、2つのセッションに分かれて「この時代を切り開き、危機・課題を乗り越えていくための人材」や「グローバル教育の取り組み、今後の大学間連携協力」「グローバルと地域をつなぐ教育」等に関し、それぞれの国の経済・文化的側面や大学、分野の特色を踏まえさまざまな観点から意見が出されました。

会場には、本学と交流の深いハンガリー、ポーランド、チェコ、ブルガリアの大使をはじめとする大使館関係者、政府・経済団体、企業、他大学関係者など約200名が集まり、グローバルコミュニケーションの重要性や各国の実情に合わせた具体的な目標・活動の重要性の共通認識を深めました。



壇上の参加大学学長達

「世界学長会議出席者」(セッション順)
セッション1

城西国際大学 柳澤 伯夫 学長
セント・イシュトバン大学(ハンガリー) László Solti 学長
カモーン・カレッジ(カナダ) Kathryn Laurin 学長
ブスティマ大学(ウガンダ) Mary Jossy Nakandha Okwakol 学長
韓国外国語大学(韓国) 朴 哲 総長
ケルン大学(ドイツ) Wolfgang Jagodzinski 所長
東北大学(中国) 王 福利 副学長

セッション2

城西大学 森本 雅憲 学長
東西大学校(韓国) 張 済国 総長
天津外国語大学(中国) 修 剛 学長
ブダペスト商科大学(ハンガリー) Éva Sándor-Kriszt 学長
北カレリア応用科学大学(フィンランド) Petri Raivo 学長
淡江大学(台湾) 戴 萬欽 副学長
トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学(マレーシア) Ewe Hong Tat 副学長

JIU創立20周年記念

Prince Takamado Memorial Sports Parkを開設 ～韓南大学校とサッカー国際親善試合～

2012年5月22日、城西国際大学創立20周年記念事業の一環としてスポーツパークが完成し、竣工式が執り行われました。

このスポーツパークは、スポーツ振興や国際交流活動に尽力した高円宮殿下のご功績を称え、またそのご遺徳を時代に継承すべく「PRINCE TAKAMADO MEMORIAL SPORTS PARK(高円宮殿下記念スポーツパーク)」と命名されました。式典では高円宮妃殿下にご臨席を賜り、竣工式へのご参列とメモリアルゲートの除幕をおこなっていただきました。

同施設は、東金キャンパスに隣接しており、公式試合用サッカーグラウンド1面とクラブハウスおよび多目的広場などの施設を有しています。サッカーグラウンドは、選手など施設使用者の健康管理に配慮し、夏場におけるグラウンドの表面温度上昇を抑えるような人工芝を敷いています。また、ナイター設備もあり、ピッチには約360の観覧席を設けています。

同施設は、本学サッカー部が試合・練習などに利用するほか、青少年の育成など地域のスポーツ振興に生かしていくとともに、スポーツを通しての国際親善・交流活動の拠点としても活用されています。



スポーツパーク全景



スポーツパークメモリアルゲート

【韓国・韓南大学校とサッカー国際親善試合】

創立20周年記念の一環として、12月11日に、公益財団法人日本サッカー協会後援により、本学の姉妹校である韓国の韓南大学校を迎えて、スポーツパークにて第1回サッカー国際親善試合を開催しました。

当日は、日本サッカー協会の名誉総裁を務められている高円宮妃殿下、川淵三郎最高顧問はじめ多くの来賓の皆様にご臨席いただきました。試合に先立ち、高円宮妃殿下、金炯泰(キム・ヒョンテ)韓南大学校総長、水田宗子理事長により、日韓両国に自生している黒松の植樹をおこないました。

対戦相手の韓南大学校のサッカー部は韓国でも強豪のチームとして知られており、韓国の全国体育大会で優勝しています。試合は、国際審判員の西村雄一氏が主審を務め、白熱した展開の末、本学が見事に2-1で勝利しました。

試合後、水田記念ホールに会場を移して地域の皆様やご来賓の皆様、両学関係者とのレセプションも催され、サッカーを通して両学の国際交流をさらに深めることができました。



親善試合に先立ち、黒松の記念植樹を終えて



親善試合での白熱したプレー

美術館・博物館

「高円宮妃殿下特別展」を開催

城西大学水田美術館では2012年9月19日から10月20日まで「高円宮妃久子殿下特別展 一空翔ける鳥、旅する根付」を開催し、期間中地域の多くの方々にお越しいただきました。開催前日の9月18日に妃殿下のご臨席のもと地域の皆様や関係者、メディア等約150名を招いてオープニングセレモニーが行われました。

学校法人城西大学では、創立45周年記念事業のひとつとして、城西大学の教育・研究への貢献と地域の皆様に喜ばれる美術館を目指して2011年12月に同美術館を開設しましたが、今回の特別展は、その開設記念事業の一環として企画されたものです。

本展覧会では、バードウォッチングをご趣味とされ、NGO/バードライフ・インターナショナルの名誉総裁として鳥類環境保全を訴え続けておられる妃殿下がこれまで撮影されてきた野鳥の写真と、根付の写真を取りすぐって展示するとともに、妃殿下の根付コレクションの中から現代根付展示も行いました。

セレモニーに先立って、学校法人城西大学の水田宗子理事長が挨拶し「この展覧会を通じて、命の貴さや美しさを未来に伝えていきたいという妃殿下の思いを、皆様とともに感じることができたら幸いです。また、そうした気持ちをついで、環境保全に取り組む人が育つためにも地域の多くの方々や学生たちに鑑賞して欲しいと思います。」と述べました。セレモニーでは、妃殿下がテープカットを行い、続いて水田理事長のご案内により特別展をご内覧された後、美術館前にて本展覧会開催を記念して妃殿下による植樹式も行われました。

また、同日午後には、キャンパス内の清光ホールにて「根付の魅力ー手のひらの宇宙に魅せられてー」と題された妃殿下による特別展オープニングご講演が行われ、皆妃殿下のお話に興味深く耳を傾けていました。



特別展をご内覧



根付コレクションと写真の展示

「世界の中の日本」プログラムで、ハンガリーの美術館を訪問

本学は、「世界の中の日本を理解し、グローバル社会においてリーダーシップを発揮できる人材育成」を目指した「世界の中の日本」プログラムを2012年度よりスタートさせており、両学あわせて140名の学生が学んでいます。本プログラムでは、「浮世絵と世界に広がる日本美術」「ジャポニスム」「外来美術の受容」の3つテーマにそって、日本美術が世界にどう受けとめられて、どのような役割を果たしたか、さらに日本人の世界観などを具体的な作品や事例から学んでいきます。

そして、同プログラムの海外研修として、ハンガリーにおける日本美術の受容と東欧文化を学ぶハンガリー研修を実施しています。同研修では、ハンガリーを代表するフェレンツ・ホップ東洋美術館とブダペスト応用美術館を訪れ、所蔵されている浮世絵、日本絵画についての現地スタッフによる解説をふまえ、海外において日本文化がどのように研究されているかを学習するフィールドワークも含まれています。



フェレンツ・ホップ東洋美術館

美術館・博物館

キャンパス機能強化に向け、東京紀尾井町キャンパス3号棟を開設

2012年1月より建設を進めてきた東京紀尾井町キャンパスの3号棟が、2013年4月に完成、開設されます。

東京紀尾井町キャンパスは、城西大学・城西短期大学の坂戸キャンパスと、城西国際大学の東金・安房・幕張キャンパスを結ぶものとして学校法人城西大学の創立40周年を記念して2005年に開設されたもので、都心の中心地にあるキャンパスとして3大学の学生と大学院生が学んでいます。また、就職センターや国際学術文化交流センター、女性センター、生涯教育センターなども設置し、研究、国際交流、就職活動支援など、学生へ幅広い支援を行うとともに、首都圏の中心地であるメ



3号棟完成イメージ

リットを活かしてさまざまなシンポジウムや講演会等によるグローバルな情報発信も積極的に行っています。さらに、2007年にはセミナー施設と宿泊施設の両機能をもつ「2号棟」を同エリアに開設し、キャンパス機能の強化を図ってきました。

そして、本学が取り組む「幅広い教養と深い専門性を持ち、問題解決にあたる国際的な人材育成」のさらなる強化を目指し、この度新たに3号棟を建設、開設することになったものです。

3号棟は、延べ床面積が約7,700㎡、地下1階地上5階建ての建物で、約250名収容の大教室をはじめとして中教室や小教室が整備されているとともに、最上階の5階には同時通訳ブースを備えた国際会議場も設置されています。同会議場の前には広々とした屋外テラスもあり、会議の合間に四季折々の植栽に囲まれて憩いの一時を過ごすことができるようになっています。

また、この建物は災害に対する備えも充実しており、十分な耐震性能をもっていることはもちろん自家発電装置等も装備し、万一の事故や災害の際には、学生や教職員はもとより近隣住民の避難の際に必要な様々な災害救援物資を収納する災害備蓄倉庫も完備されています。

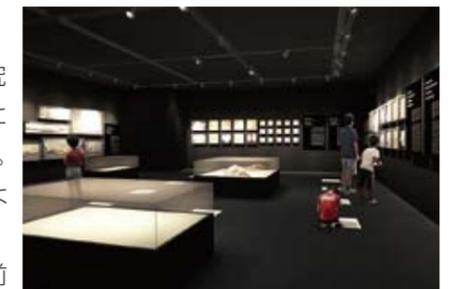
さらに、地下には様々な催し物に対応できる多目的ギャラリーや、多数の化石コレクションを展示する化石ギャラリーも併設されています。

「大石化石ギャラリー」を併設

3号棟地下に併設する「大石化石ギャラリー」は、かずさDNA研究所理事長・分子生物学、分子遺伝学者でもある大石道夫氏ならびに中国の姉妹校から提供を受けた化石等を主な収藏品としています。また、本学姉妹校でもある瀋陽師範大学古生物博物館の協力により制作された大型肉食恐竜の骨格模型レプリカも設置します。

化石ギャラリーでは、「化石から未来を創る」をテーマに、1億年前の白亜紀の水棲生物をはじめとする数々の化石や、魚類の進化史、大石化石ギャラリー(イメージ)過去の温室地球と現在の温暖化現象との比較考察など、タイムカプセルとしての化石が持つ不思議と魅力に迫る化石標本の展示を行います。

本学では、この化石ギャラリーを通して、国際教育連携の促進だけでなく、地域や近隣の子どもたちが科学教育について知的興味を持てるように展示内容はもちろん、IT学習、ワークショップなど工夫をこらして展開していく予定です。



埼玉・坂戸地域の活性化

地域・行政と連携した「高麗川プロジェクト」を展開

高麗川は、城西大学にとって地理的に縁が深だけでなく、学歌にも歌われ、学生たちの憩いの場・心の拠り所となっています。

大学では、これまでも地域と連携しながら、高麗川周辺のクリーンキャンペーンやウォーキング大会のサポート、現代政策学部学生による周辺休耕地での米栽培、高麗川やその周辺を舞台にした韓国姉妹校との映画製作など、高麗川に関わる教育プログラムを数多く展開してきました。

そして、2015年の創立50周年に向けて、これまでの諸活動を統合し、大学と地域、行政との3者の連携に基づく教育活動や共同体意識の啓発を支援・推進することを目的とし、高麗川の粗大ゴミを回収



高麗川の粗大ゴミを回収

て大学内に「高麗川プロジェクト」を策定しました。本プロジェクトは、ゼミや授業の中での活動に加えて、学生の自主的な活動も含めた大学全体の活動として、より大規模で多様なものになることが期待されます。

2012年6月12日には埼玉県議会議員をはじめ多くの関係者の出席のもと、プロジェクトの発会式を行いました。今後、本プロジェクトを通じて学生と地域の方々が高麗川をふるさとの川として誇りに思い、高麗川を中心にしてこの地域に豊かな自然環境が広がるとともに、地域産業の育成や文化の向上につながることを目指してさまざまな活動を積極的に展開していきます。

現在展開しているプロジェクト活動のうち、代表的な2例を紹介します。

【オール埼玉ブランドの日本酒づくり】

前述の現代政策学部学生による高麗川周辺休耕地での米栽培がさらに進展し、学生らが埼玉県開発の酒造好適米「さけ武蔵」を栽培して毛呂山町の「麻原酒造」にて酒造りに取り組み、坂戸市や鶴ヶ島市の飲食店で販売しました。まさに「オール埼玉ブランド」と言えるこの日本酒は、学生たちにより「醸彩(じょうさい)滝不動」と名付けられました。

なお、この「休耕地活用プロジェクト」は、埼玉県「農との共生田園都市豊かな暮らし満喫事業」として採択されています。



酒米を収穫する学生達

【高麗川清掃ボランティア】

2012年11月14日、城西大学のさまざまな学部やサークルなどから集まった学生有志と、地域市民団体「高麗川ふるさとの会」メンバー、坂戸西高校の生徒たち合計約50名で、大規模な高麗川清掃ボランティア活動を行いました。

4班に分かれて大学に隣接する高麗川右岸の河川敷で清掃を行い、短時間で軽トラック1台分ものごみが集まりました。今回の活動は清掃ボランティアだけでなく、大学外のさまざまな年齢の方たちと共通の目的を持って交流する良い機会となりました。



「ふるさとの会」の方とゴミを収集

埼玉・坂戸地域の活性化

毛呂山町、越生町と連携協定を締結

城西大学は、埼玉県や近隣の市町村との連携による地域貢献活動を積極的に展開しており、2012年度は毛呂山町、越生町とそれぞれあらたに連携協定を締結しました。

毛呂山町とは、9月28日に地域連携協定を結び、調印式を執り行いました。毛呂山町には、城西大学の最寄り駅となる東武越生線川角駅があり、以前より深い親交がありました。また、毛呂山町は豊かな自然と歴史を持ち、全国的な柚子の産地としても知られています。

締結後の具体的な活動の一つとして、2012年10月14日に毛呂山町防災訓練に本学在学生在が参加、本学教員が毛呂山町行政改革推進委員に就任するなど具体的な活動を実施しました。今後とも、産業・文化・伝統・芸能など、多くの分野で毛呂山町と大学との連携した施策によって共に発展していけるよう取り組んでいきます。

また、11月2日には、越生町と相互連携に関する基本協定を結び調印式を執り行いました。越生町と城西大学は、学生が関東三大梅林で有名な梅まつりや越生祭りに参加したり、薬学部が梅や柚子を利用した製品の開発や研究に協力するなど、以前より活発に交流が行われていました。

今回の協定では、地域社会の発展と人材育成に寄与するため、産業・文化・学術等の分野で相互に協力していくことを目的に掲げています。今後、両者間で具体的な交流がさらに深まり、より一層の地域貢献に発展することが大いに期待されます。

なお、城西大学は2013年4月には鶴ヶ島市とも相互の連携協力を目的とした包括協定を締結する予定で、今後も近隣地域との連携活動・交流の強化に取り組んでいきます。



井上健次毛呂山町長との協定締結



越生町との協定締結

箱根駅伝に10年連続、10回目の出場を果たす

城西大学男子駅伝部は、正月恒例の第89回東京箱根間往復大学駅伝競走(2013年1月2日・3日)に10年連続10回目の出場を果たしました。

前年の大会では総合第6位に入賞して2度目のシード権を獲得し、2013年の大会に向け日々練習に励んできました。

大会当日には、坂戸市長を団長とする坂戸市民応援団を結成し、坂戸市民の方々を中心に約60名の方々がスタート地点の東京大手町で選手に大きな声援を送っていただきました。結果は、誠に残念ながら往路5区にて途中棄権となってしまいましたが、復路では参考記録ながら9位相当の記録でゴールすることができました。

2014年は予選会からの出場となりますが、選手全員が今年大会の悔しさを晴らすべく練習に励み、地域の皆様の期待にお応えできる活躍を目指します。



10年連続、10回目の出場を果たす

埼玉・坂戸地域の活性化

近隣図書館との連携による水田記念図書館の情報発信

城西大学水田記念図書館では、地域に貢献できる図書館を目指して、所蔵する様々な図書類や貴重な資料をより多くの方々に公開するなど広範囲な活動を行っており、学生だけでなく、年間5千人以上の近隣の方々に利用されています。

また、2007年より近隣の公共図書館6館（坂戸市立図書館、鶴ヶ島市立図書館、毛呂山町立図書館、日高市立図書館、越生町立図書館、飯能市立図書館）と相互協力協定を結んで、図書館公開講座の共催や図書館員の合同研修会、図書館まつり・イベントへの参加、図書館活用講座などを毎年行っており、本学図書館も積極的に活動しています。2012年度の合同主催公開講座では、11月に坂戸市立図書館を会場に、本学図書館の従二副館長の講演会「くすりにやさしく」を開催しました。本学ならではの分かりやすい薬学関連の話に多くの聴衆が聴き入り、講演終了後にも質問者の列ができるほどでした。



「鶴ヶ島図書館まつり」での日本の伝統医学の展示

また、9月に行われた鶴ヶ島市立図書館主催の図書館まつりでは、本学所蔵の漢方古書資料の実物とデジタル化して公開している資料とを紹介しました。漢方研究会の学生による薬研（やげん）などの実演も行い、学生達にとっても日頃の研究成果を披露できる場として大変有益な機会となりました。

また、埼玉県主催による桶川市民ホール・さいたま文学館で12月に開催された「図書館と県民のつどい埼玉2012」では、本学は「日本の伝統医学～暮らしに生かす漢方の知恵～」の展示を行うなど、より広い地域に本学の所蔵資料を紹介する活動も積極的に行なっています。

「放射線と健康被害」をテーマに薬学部生涯教育講座を開催

城西大学薬学部では、地域の方々の健康増進と、医療現場からの薬学関連の様々な要望に答えることを目的に、毎年生涯教育講座を開いています。

2012年5月12日に開催された第48回の生涯教育講座では、「放射線と健康被害—医療者が持つべき知識」をテーマに開催されました。2011年3月の東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故により、膨大な量の放射性物質が環境中に放出され、国民が放射線による健康被害に関して大きな不安を抱えることとなりました。薬剤師を中心として、本学卒業生は広く医療にかかわる分野で活躍しており、市民の方々からの放射線に対する不安や疑問に正しい知識を持って答えられることをめざし、今回は2名の先生をお招きして講演していただきました。



生涯教育講座のもよう

放射線医学総合研究所緊急被ばく医療研究センター被ばく医療部体内汚染治療室の石原弘先生には、放射線被ばくについて、地球上にもともと存在する放射線によるもの、医療行為にかかわるもの、放射線災害によるものについて比較説明がなされ、被ばくを考える場合には、被ばく時間と時間当たりの被ばく量を考慮して考える必要性が説明されました。もう一人の内閣府食品安全委員会事務局評価課、林亜紀子先生には、食品中の放射性物質について、評価方法と基準値設定のプロセスと考え方を詳しくお話いただきました。

参加された近隣の方々や医療現場の関係者の方々には皆熱心に先生のお話を聴講され、講演後は活発な質疑応答がなされました。

東金・千葉地域の活性化

複合型農業による地域活性化モデルプロジェクトを実践

～大豆・稲の栽培から加工・販売までを体験～

城西国際大学環境社会学部では、環境保全と地域活性化を実現する「新しい農」を教育・研究しており、それにもとづいたさまざまなプロジェクト活動を行なっています。

その活動の一つとして、2012年4月から12月にかけて、大学周辺の田んぼや佐倉市にある大学付属の木村農場で稲と大豆を栽培し（生産＝1次産業）、納豆や味噌に加工（加工＝2次産業）しました。また、それらの過程でイベントや食農・環境教育（サービス＝3次産業）を実施しました。農業や水産業などの第1次産業が食品加工・流通販売にも業務展開している複合型農業は「1次+2次+3次＝6次産業」ともいわれ、地域活性化手法の切り札として広く注目されています。



国際色豊かな学生たちによる田植え

本プロジェクトにおいて、農園での栽培には自然農の手法を取り入れ、化学肥料や農薬はもちろん、機械力作業も極限まで削減し、食の安全と環境負荷に最大限配慮しました。学生は田植えや除草、稲刈り、稲架掛けなど、昔ながらの手作業を通じて栽培を学びました。また、手作業と生態系サービスの関係の分析や、手作業に伴う労働コストと環境ベネフィットとの相反を乗り越える社会的方法についてもディスカッションするなど、食と農業、環境に関する多面的教育が展開されました。

加工では、納豆と味噌を製造しました。納豆は農園で栽培した大豆を茹でて、田んぼの藁苞に包み、稲藁にいる野生納豆菌の力を借りて作りました。また味噌も米を麴にすることから始めて製造の全過程を体験することで、食品に込められた先人の知恵を再発見しました。12月に東金キャンパスで行われた加工イベントや試食会には、ハンガリー、中国、アメリカをはじめとする各学部への留学生が参加し、食文化を通じた交流も楽しみました。



味噌の加工のようす

このような過程を経て仕込んだ味噌は熟成の後12月に完成し、大学のアンテナショップ・カリヨンでの販売や、大学内のレストランでの提供を計画しています。

環境社会学部では今後もJIU農園をフィールドに、6次産業型の地域活性化プロジェクトに取り組んでいきます。

岡田武史特任教授が特別講演

前サッカー日本代表監督であり、本学特任教授の岡田武史氏が、2012年12月7日に城西国際大学水田記念ホールで「サッカーは国境を越えて」と題した特別講演を行いました。

岡田氏は、現在は中国サッカー・スーパーリーグの杭州绿城足球倶楽部で監督を務められていますが、杭州绿城監督就任への経緯やそこに賭ける思い、可能性を秘めた選手たちの意識改革策、そして枠組みや価値観が変わっていく社会で活躍する若者に求められる、本質を見抜く力の重要性など、氏の豊富な指導経験に基づく持論を熱く語り、会場を埋めた多くの学生や近隣から参加された聴講者達を魅了しました。



講演する岡田特任教授

東金・千葉地域の活性化

看護学部開設、看護実践教育研修を開講

城西国際大学は、地域医療への貢献、薬学や福祉に強く国際的に活躍できる看護師の育成を目指して2012年4月に看護学部を開設し、現在120名の1期生たちが看護師を目指して多角的に学んでいます。9月25日には、本学看護学部のはじめての戴帽式も水田記念ホールにて挙行し、看護の道を志すものとしての決意を新たにしました。

また、看護学部では地域連携・社会貢献の一環として、地域および実習関連病院の看護職の実習指導における基盤的能力の形成を図ることを目的に、11月14日から12月21日にわたり、全8回の日程で看護実践教育研修「臨床実習指導者の基盤形成I」を東金キャンパスで開催しました。

研修は、近隣の病院で勤務されている延べ287名の看護師の方々が受講され、本学の学生が臨床実習を行う予定の病院からも多数のご参加をいただきました。研修は飯田学部長をはじめとした看護学部所属の教員によって行われ、「看護教育に関する内容」と「実習指導に関する内容」について講義がありました。最終日は実習場面の事例を使って「学生の気持ちはどうか」「臨床指導者としてどのように関わるか」をグループでディスカッションし、各グループの代表による発表を行いました。



戴帽式の様子



教育研修で熱心に学ぶ受講者たち

薬学部が地域医療をテーマにした「九十九里地域医療夏期セミナー」に参加

2012年8月25・26日に九十九里地域医療協議会主催の「九十九里地域医療夏期セミナー2012」が千葉県立東金病院及び城西国際大学を会場として開催され、本学薬学部の学生18名が参加しました。本学からのこのセミナーへの参加は今年で3年目となりますが、今年のセミナーは、「地域医療を考える～九十九里地域 医療・福祉・行政・住民協働」をテーマに実施されました。

セミナーでは、これからの九十九里地域の医療の在り方について、地域の医療・福祉関連従事者や医療系学生、地域医療・福祉に関心を寄せる多分野の学生とともに、救急医療や緩和ケア、福祉サービスや小規模多機能施設、社会貢献活動を行う企業、ビジネスモデルの提案など、多くのフィールドワークを経験することで、地域の課題解決に資する取組を学びました。2日目に行われたワールドカフェスタイルディスカッションでは、フィールドで学んだ事例を互いに紹介するうちに複数の取組が融合することによる新たな活動提案が生まれ、夏期セミナー後の展開が大いに期待される成果を挙げました。

参加した本学の学生からは、「多職種と連携して地域を支援できる専門職を目指したい」「患者さんに寄り添える専門職を目指したい」などの声がありました。また、地域の人々や他大学・他学部生との出会いは、ふだんの大学生活では感じえない多くの気づきを学生にもたらしました。参加した学生それぞれの、今後の成長と医療業界での将来の活躍が期待されます。



セミナーでの討議風景

東金・千葉地域の活性化

2012年度「大学間連携共同教育推進事業」に採択

城西国際大学を含む千葉県の三大学が連携する共同教育推進事業「実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム」が、文部科学省の2012年度「大学間連携共同教育推進事業」に採択されました。

「大学間連携共同教育推進事業」は、国公私立の設置形態を超え、地域や分野に応じて大学間が相互に連携し、社会の要請に応える共同の教育・質保証システムの構築を行う取り組みの中から優れたものを選定し、重点的な財政支援を行うことにより、教育の質の保証と向上、強みを活かした機能別分化を推進することを目的としています。本プログラムは、「高度化する薬剤師業務に対する社会からの要請を明確にとらえ、同一地域の薬学部の連携が、教育レベルのボトムアップの点で意義がある」との理由で採択されたものです。

このプログラムでは、本学（地域医療の再生）と千葉大学（先進医療）・千葉科学大学（災害医療）が協働しながら、3大学それぞれが特徴的教育プログラムを構築し、さらに千葉県薬剤師会、千葉県病院薬剤師会、NPO法人医薬品適正使用推進機構等との連携の下、社会の要請に対して主体的に学び社会へ還元できる薬剤師の養成を目指した教育を行います。

プログラムの中で、現在薬剤師の関与が強く望まれている職務である「放射性医薬品調製・管理業務」、「病棟活動における専門職連携」、「救急災害時医療活動」、「在宅医療での薬剤管理指導」、「違法薬物、医薬品適正使用、ドーピングの知識普及・啓発活動」について、アクティブ・ラーニングを取り入れた実践社会薬学教育プログラムを三大学で協働して作成します。本学は、そのうち、在宅医療実践に資する薬剤師の養成を中心に5年間にわたり取り組む予定です。



地域に役立つ薬剤師育成を目指して

第2回水田杯少年野球大会、第4回水田宗子杯女子ソフトボール大会を開催

城西国際大学は、鴨川市・南房総市・館山市より15の少年野球チームが南房総ナンバーワンを争う「第2回水田杯少年野球大会」を2012年7月7、16日に鴨川市宮球場他で開催しました。

鴨川市は、スポーツを通じて少年の健全育成と地域への貢献を掲げており、その趣旨に賛同して本学が大会を主催しているものです。開会式では、大会会長であり本学客員教授で元オリックス監督の石毛宏典氏が挨拶しました。全試合で小学生の全力プレーが繰り広げられ、決勝戦では館山リトルエンジェルスが北条スターズを5-1で下し、見事栄冠に輝きました。

また、8月18、19日に「第51回千葉県高等学校東房総地区女子ソフトボール大会 兼第4回水田宗子杯女子ソフトボール大会」が城西国際大学グラウンド、水田記念球場で開催されました。

参加高校は地元近隣9高校で、参加選手を含めて合計220名の方が来学されました。本学女子ソフトボール部員が事前準備も含め大会運営全般に協力し、ソフトボール部員のきびきびした対応は、各高校や応援の保護者の方々からお褒めのお言葉をいただきました。二日目に各リーグの決勝トーナメントが行われ、1位リーグに進出した千葉黎明高校、幕張総合高校、成田国際高校の3校が決勝を戦い、見事千葉黎明高校が1位になりました。



少年野球大会 元気に選手宣誓



ソフトボール大会 熱戦のようす

東金・千葉地域の活性化

JIUパトロール隊が東金駅駐輪場で防犯啓蒙活動

城西国際大学では、2007年より課外活動団体の学生を中心にJIU防犯パトロール隊を結成し、東金警察署と連携した防犯パトロールを行っています。これは大学近隣および東金市内の犯罪抑止や、地域の防犯啓蒙活動を目的とした地域貢献活動の一環であり、毎月2〜3回実施しているものです。

また、2013年からは東金警察署と連携してJR東金駅西口駐輪場の防犯啓蒙活動を行なっています。JR東金駅西口駐輪場は、本学学生たちも含め毎日多くの方々が通学や通勤で利用されていますが、残念ながら自転車盗難も発生しており、利用者の方々からも改善が望まれています。

このような中、地域の利用者が少しでも安心して駐輪場を利用できるようにと、課外活動団体の学生を中心とした有志の学生が同署と連携して防犯啓蒙活動を行うことになったものです。この活動では、同駐輪場前において、東金署員と一緒に利用者の方々に盗難防止用のワイヤーロックを配布し「盗難防止のため、自転車にはツーロック（鍵を2つつける）をしましょう」といった声かけや、防犯カメラが設置されていることを知らせる看板設置なども併せて実施しており、東金警察署からも「防犯活動実施後の自転車盗難件数が大幅に減少しました」との報告や感謝の声をいただいています。

本学は、今後もこのような活動を継続し、東金市内および大学近隣の安全・安心の向上に貢献していきます。



啓蒙活動を行う学生たち

女子剣道部員が地元中学校の剣道部を指導

城西国際大学女子剣道部は、地域貢献と少年剣道育成の一環として、2012年12月より地元東金市の東金東中学校において、剣道の指導に携わっています。武道の必修科目が義務付けられている教育現場からの「指導者不足」の声もあるなかで、本学剣道部の「地元」に根を張り、剣道を通して地域人材育成に貢献したい」という思いのもとに、今回、同校の剣道部指導の機会が実現したものです。

本学で教職課程を受講し、将来保健体育の教員を目指して学んでいる剣道部の女子部員10名を中心に週2回、ご父母の見守る中、東金東中学校剣道場において未来を担う若い剣士達10名と共に汗を流し稽古に励んでいます。

生徒たちは学校での練習の後、自己研鑽のため保護者と共に参加しています。まだ始めたばかりの指導ですが、生徒一人ひとりの日頃の練習の成果が目に見える形で着実に現れており、生徒のご父母からも数多くの感謝の言葉をいただいています。本学の学生も、指導しながらも「自らの剣道を正し、共に学ぶ」ことを基本に置き、『素直な心と感謝の気持ち』が大切であるという、自らが学んだことを次の世代にも伝えたいという思いで熱心に指導にあたっています。また同時に、将来教員を目指す学生たちにとっても、剣道の指導を通じて教育の喜びと難しさを肌身で感じるなど、学生たち自身も大いに刺激を受けて日々成長を重ねています。



女子剣道部員が中学生を指導

鴨川地域への貢献

嶺岡林道桜並木修復プロジェクトに市から感謝状

学校法人城西大学では、今から37年前に創立者の水田三喜男先生が鴨川市の嶺岡林道において、地元の皆様と共に植樹した500本の「水田桜」の保護・修復と林道の活性化を目的に、2006年に「嶺岡林道桜並木修復プロジェクト」を立ち上げ、毎年新しく桜の植樹を行っています。水田桜は、現在では約580本の桜並木に修復されています。

2012年4月7日に行われた桜の植樹式では、片桐鴨川市長より、これらの植栽を含めた「嶺岡林道桜並木修復プロジェクト」に対して水田宗子理事長に感謝状を授与されました。

同日、城西国際大学観光学部の主催によって行われた毎年恒例の「桜まつり&ウォーキング」では、近隣から参加された方々が新緑の林道を心地よい風を感じながら旧水田家生家まで全長12キロのコースをウォーキングしました。また、ゴール地点での「さくら祭り」では、地元安房高校の吹奏楽部の演奏や曾呂小学生の獅子舞などが行われました。

なお、7月11日には、城西国際大学創立20周年記念事業の一環として、水田理事長、柳澤学長、本学顧問の村井隆先生、片桐鴨川市長、地域の皆様、更には大連理工大学の杜先生にもご列席いただき、水田桜記念碑および、優れた俳人としても知られる村井隆先生句碑の建立除幕式を行いました。

句は「どの道も ゆくも大連 花槐」で、水田三喜男生家近くの桜の美しい嶺岡林道に建立しました。



片桐市長より感謝状の授与



水田桜記念碑の除幕

アニメツーリズムの実践で「鴨川ジャージ部サミット」を企画・運営

城西国際大学観光学部は、地元の方々に感謝の意を込めて毎年夏に開催するイベント「サマーフェスタ」の一環として、2012年7月29日に「鴨川ジャージ部サミット」を開催しました。

「鴨川ジャージ部」とは、鴨川市を舞台にしたTVアニメ『輪廻のラグランジェ』のサポーターのことです。このアニメには鴨川市の実在する場所が多く登場し、鴨川市ではこのアニメを活用した「観光まちづくり」に取り組んできました。本学観光学部もその活動の推進母体と連動し、学生たちが様々な町おこし活動をおこなってきました。

そして今回、「鴨川ジャージ部」という共通項を持つ部員同士の交流の場を設け、アニメの舞台となる鴨川と一緒に盛り上げたいという思いから、「鴨川ジャージ部」の部員でもある学生たち自らが今回のサミットを企画・運営しました。当日は、県内外から40名ほどの部員が集い、鴨川のアニメツーリズムの今後について、活発な意見が交わされました。学生たちにとっては、地域に根ざしたイベントの企画・運営を体験的に学ぶ良い機会となりました。

なお、当日行われた鴨川納涼花火大会でも、観光学部の学生たちが鴨川市観光協会の協力を得て「輪廻のラグランジェ特設ブース」を開設し、ブースの展示から運営、商品販売の管理までを学生たちが取り仕切りしました。



サミットの出席者たち

産学官連携

本学にて「V4+日本 東方パートナーシップ・セミナー」を開催

2013年2月5日、本学東京紀尾井町キャンパス地下ホールにおいて「V4（ヴィシェグラード4）+日本 東方パートナーシップ・セミナー」が外務省、V4諸国、本学の共催により開催されました。

中欧のチェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキアの4カ国は、各国間の友好と協力を進めることを目的とした協力の枠組みとして「ヴィシェグラード・グループ」(V4)を形成しており、日本でも「V4+日本」として外務省が経済、環境、開発協力・エネルギー効率等のトピックスに関する各種セミナーを行ってきました。

また、本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界の様々な大学と積極的に国際交流を深めるなか、特に中欧地域との教育交流を強化しています。今回は、V4諸国の関心も高い「東方パートナーシップ」(EUが、欧州近接国施策として東方6カ国(グルジア、ウクライナ、アゼルバイジャン、モルドバ、アルメニア、ベラルーシ)に対する地域的協力関係を強化する枠組み)をテーマとして、更に幅広い層への日本におけるパートナーシップ対象地域の認知・理解促進を目的に、中欧地域の大学と交流関係の深い本学キャンパスにおいて開催することになったものです。

セミナーには、日本政府をはじめ、V4および東方パートナーシップ対象国の大使や22カ国の大使館の外交団、本学関係者、学生、有識者、本学のグローバル教育を支援していただいている企業の方々ら約150名が参加しました。

水田宗子理事長がセミナーのオープニングのスピーチを行い、その後、城内実 外務大臣政務官、ポーランド外務次官のグラズィナ・ベルナトヴィチ博士、駐日欧州連合代表部代表・大使のハンス・ディートマール・シュヴァイスグート氏がそれぞれキーノートスピーチを行いました。

セミナーは、昼食を挟んで「民主主義、良好なガバナンス」「経済統合と経済協力」「エネルギー保障」「東方パートナーシップの方向性と日本の外交」に関する4つのセッションが実施され、各セッションでは日本とパートナーシップ対象地域における各分野の専門家がパネリストとしてプレゼンテーションを行った後、活発な議論が展開されました。

今回のセミナーを通じて、V4およびパートナーシップ対象地域の各分野における対話・協力体制整備に向けた課題や今後の方向性が共有されるとともに、聴講した本学学生らにとっても、各国の代表者の生の声を聞き、外交の現場を実体験することによって地域の情勢をより深く理解し、これまで以上にグローバルな視野を持つための大変貴重な機会となりました。



城内実外務大臣政務官のキーノートスピーチ



セミナーの様子



22カ国の大使館関係者が参加



セミナー終了後の記念写真

産学官連携

地域福祉・医療研究センター設立記念講演会「がんと向き合って生きる」

2012年12月1日、城西国際大学創立20周年および地域福祉・医療研究センター設立記念講演会「がんと向き合って生きる」が、垣添忠生氏(前国立がんセンター総長、現 日本対がん協会会長)を招いて東金キャンパス水田記念ホールにて開催されました。

地域福祉・医療研究センターは、地域医療における病院、薬局、介護・福祉施設などとの連携によって地域医療・福祉に貢献する目的で2011年11月に設立されたものです。講演会に先立ち、主催の同センター長山忠雄所長より挨拶とセンターの紹介のあと、福祉総合学部、看護学部、薬学部の3学部の学生による学部活動紹介が行われました。

その後、垣添氏より、がんと向き合って生きるために「がんとはどういう病気か」「がんの予防と検診」「がんの診断と治療」「人が生きるということ」「わが国のがん対策」など、その概要と予防の重要性についてのご講演をいただきました。

講演会には、本学学生の他にも、近隣の福祉施設・病院や一般の方々からの参加が多数あり、講演後に設けられた健康相談コーナーにも多くの相談者がありました。



講演する垣添忠生氏

イノベーションセンター主催「日中経済経営フォーラム」開催

2013年1月29日、学校法人城西大学イノベーションセンターは、「第3回日中経済経営フォーラムJOSAI」を東京紀尾井町キャンパスで実施しました。本フォーラムは、中国の大学と深い交流関係を持つ本学において、様々な分野での日中両国の相互理解と関係性を深めることを目的に開催されているものです。

第3回となる今回は、大連理工大学交通運輸学院院長の趙勝川教授を講師に迎え「中国における都市物流の新しい動向」をテーマとした講演が行われました。

講演は都市における物流の基本的な機能の説明から始まり、交通需要の視点での分析、中国物流政策の特徴にも触れ、大変興味深い内容でした。また、物流による都市部の大気汚染への中国政府の対策事例としてグリーン交通も紹介されました。

講演には城西大学・城西国際大学の大学院生とともに、外部から公的機関や一般企業からも多くの方々に参加いただき、講演後には講師との質疑応答形式で十分な議論の時間をとり、活発な質疑応答が行われました。



講演する趙勝川教授

国際アドミニストレーション研究科開設記念 エグゼクティブ・プログラム開催

2013年2月13日、エグゼクティブ・プログラムを東京紀尾井町キャンパスで実施しました。このプログラムは、城西国際大学の国際アドミニストレーション研究科の開設を記念し、学内外、広く専門家を招いて行われています。第4回目となる今回は、小野寺正KDDI株式会社代表取締役会長により「情報通信 (ICT) 産業のグローバルイノベーション」をテーマに講演を行いました。

講演では、通信業界のグローバルマーケット動向と地域別現状や、世界の地域ごとの通信規格・技術、文化、言語の違いなどを背景とした通信業界独特のグローバルイノベーションとローカライゼーション、グローバルイノベーションの今後の展望・課題とソフト技術の重要性等についてのお話がありました。

講演終了後の質疑応答に多くの質問や意見が提示され、通信産業のグローバル化について白熱した議論が展開され、大盛況の講演会となりました。



講演するKDDI小野寺会長

産学官連携

住友化学株式会社と、日中間の文化・教育交流に関する覚書を締結

学校法人城西大学は、2012年12月4日、住友化学株式会社と、寄付講座を含む日中間の文化および教育交流の進展と、日中友好関係の深化に貢献することを目的にした覚書を締結しました。

これは、早くから中国の数多くの大学と積極的に学术交流を展開し、日中間の学術文化および教育・文化交流を進展させ、両国の人材育成を通じた日中友好関係の強化に貢献するという本学の取り組みと、事業を通じて日中友好関係の深化に寄与するという住友化学株式会社の考えが一致した結果、今回の寄付講座提供を含む覚書の締結に至ったものです。

本学は、中国との学术交流の一環として、中国の大学において日本語・日本文学・文化・社会などの日本研究に従事する博士号を有する教員を輩出し、日中の架け橋となる人材を育成することを目的に、本学の学术交流提携校である大連理工大学・大連外国語大学・東北大学との連携により「日中連携大学院」を設置、幅広い教育を展開しています。

本覚書の締結により、本学が大連理工大学と連携して行っている日中連携大学院の博士課程プログラムにおいて、日本や東アジア文化に関する同社の寄付講座を開設しました。また、寄付講座に加えて、博士論文提出予定者の日本における調査・研究のための留学費用、論文出版費用のサポート等も行っています。

本学は、今後も企業との産学連携を深めることを通じて、社会に有意義なグローバル人材育成の取り組みをより一層進めていきます。

毎日新聞社と提携して実践的な「メディア論」講座

城西大学経営学部では、産学連携活動の一環として、毎日新聞社との提携により実践的なジャーナリズム、メディア論が学べる講座「メディア論Ⅰ・Ⅱ」を2012年度からスタートしました。

本講座では、毎週水曜日に各分野の第一線で活躍する毎日新聞社の14人の記者が講師となり、オムニバス形式で毎回最新の社会・業界動向に応じたテーマで講義を行いました。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 第1回 「新聞の役割」 | 第8回 「選挙制度と民主主義」 |
| 第2回 「女性とジャーナリズム」 | 第9回 「異文化理解と報道」 |
| 第3回 「震災と報道写真」 | 第10回 「新聞と新媒体戦略」 |
| 第4回 「ソーシャルメディアとは」 | 第11回 「皇室報道の読み方」 |
| 第5回 「虐待とメディア」 | 第12回 「真実の中国報道」 |
| 第6回 「震災報道1年」 | 第13回 「オリンピック報道の裏側」 |
| 第7回 「地域面の役割」 | 第14回 「芸能記事とは」 |



講座講師と解説する草野教授

そして、前期最終の第15回目の授業では、受講者全員がニュース検定を受けました。

前期・後期とも履修者が600名以上にのぼり、学生たちのメディアに関する関心の高さを伺わせました。なお、通常の教室では収容ができないため、講堂の清光ホールで授業を行いました。

「記事はどのように作られるのか」「報道記事から社会がどう読み取れるのか」「報道の役割とは何か」など、大スクリーンを活用した多彩な授業内容に、学生たちは皆真剣に聞き入っていました。最新の動向に即した講義内容が学生にも大変好評で、特にソーシャルメディア関連や写真報道関連が印象に残ったようです。

本学では、今後もこのような新しい形での産学連携・カリキュラム構築に取り組んでいきます。

産学官連携

本学と日活がポストプロダクション施設を設立

学校法人城西大学と日活株式会社は、東京紀尾井町キャンパス内にポストプロダクション施設(仮称:城西/日活ポストプロセンター)を設立して、次世代の映像人材の育成に向けて協力することに合意し、2012年9月10日に日活調布撮影所にて記者発表を行いました。

本学と日活は2010年の包括協定締結にもとづき、2011年4月に城西国際大学メディア学部新たに映像芸術コースを開設し、日活芸術学院の協力のもと、最先端のデジタルメディアテクノロジーを取り入れながら次世代の映像文化を創造する人材の育成に取り組んでいます。

今回は、それらの取り組みをさらに発展させるべく、本学東京紀尾井町キャンパス内に城西国際大学メディア学部と日活が共同でプロ仕様のポストプロダクション施設を設置し、2013年7月からスタートする予定です。

本ポストプロセンターは、オンライン編集室、オフライン編集室、MAルーム等を有し、メディア学部の映像制作実習だけでなく、日活のプロのスタッフもこれらの設備を利用して映像作品を制作する予定です。本学の学生はプロの制作現場と同じ最新の環境でポストプロダクション工程の実習等を行うことができ、より実践的な映像制作技術を学ぶことが可能になります。

本学は、今回のポストプロセンターの設立を契機に、日本の映画文化の一端を担ってきた歴史ある日活とさらに連携を深めることにより、総合芸術である「映画」に関する様々な専門知識や映像メディアに関する幅広い教養を伝え、将来の日本のコンテンツ産業を担い、グローバルに活躍できるメディア人材育成に取り組んでいきます。



記者会見での水田理事長と日活株式会社 佐藤社長

メディア学部主催 日活百周年記念シンポジウム

城西国際大学は創立20周年を記念して、2012年12月1日、東京紀尾井町キャンパス地下ホールで「日活百周年記念シンポジウム」を開催しました。

今回のシンポジウムは、本学メディア学部が日活と連携してメディア教育を進める中、日活の2012年9月の創立百周年を記念して行われたものです。

シンポジウム開催にあたり、水田理事長は「100年を迎えた日活と、今後も共同で日本映画を支える学生を育てていきたい」と挨拶しました。

シンポジウムでは、午前中に1962年の日活映画「キューポラのある街」上映後、午後から映画評論家の佐藤忠男・日本映画大学学長が「日本映画史における日活の果たした役割」について基調講演を行いました。その後、篠田正浩氏(映画監督 城西国際大学客員教授)、根岸吉太郎氏(映画監督 東北芸術工科大学学長)とリピット水田堯氏(南カリフォルニア大学教授)らをパネリストに「日活から受け継いだもの、松竹と日活、海外からの視点」をテーマにしたパネル・ディスカッションが行われました。

会場には、日本映画に深い関心を持つ方々や日活ファン、学生、映像・メディア関係者ら約180人が来場し、皆熱心にシンポジウムやパネルディスカッションを聴いていました。



産学官連携

メディア学部がアクアラインマラソン等をネット中継

城西国際大学メディア学部では、ITテクノロジーを活用して千葉県内各地のスポーツイベント、国際会議などのインターネット中継に5年前から取り組んでおり、地域からの情報発信の経験を重ねています。2012年度は、5年前から取り組んでいる「青木半治杯中学校対抗銚子半島一周駅伝大会」(2013年1月開催)や、10月に実施された「ちばアクアラインマラソン」などのスポーツ・文化イベントでの中継を行ないました。

「銚子駅伝」中継プロジェクトは、移動中継車からの映像や、沿道18か所の地点からの生中継などを通じて大会の様相を中継しています。このプロジェクトは地元企業の協力のもと、約30名のメディア学部学生と約20名の県立銚子高校、市立銚子高校の生徒の皆さんと共同制作しており、地域の情報を地域から発信する機会として毎年実施しています。

「アクアラインマラソン」は、昨年初めて実施された参加者1万5千人の千葉県最大の市民マラソン大会です。このマラソンを中継するプロジェクトは、前述の「銚子駅伝」中継プロジェクトの実績により、大会実行委員会からメディア学部が依頼を受け、寺本准教授・島野助教を中心として、約15名の学生が大会実行委員会と綿密な連携を取りつつ、プロジェクトとして中継の準備・実施を担当しました。

「アクアラインマラソン中継」は、1万人以上のユニークユーザーを記録するなど、いずれの中継も多くの視聴者数があり、インターネットを通じてイベントを発信することへの需要の高さを実感する重要なプロジェクトとなっています。



アクアラインマラソンの中継



銚子駅伝を中継するプロジェクトメンバーたち

観光学部と伊東商工会議所の共同プロジェクトがスタート

城西国際大学観光学部と伊東商工会議所(静岡県伊東市)は、着地型観光商品開発を目指した共同研究「伊東市着地型観光研究プロジェクトJ&C」の調印式を2012年10月26日に伊東市内にて実施しました。

本プロジェクトでは、地域特性を活かした着地型観光商品の開発研究を中心に、広域型の観光商品などの研究も行っていきます。本年度は、伊東商工会議所、伊東観光協会、伊東温泉旅館ホテル協同組合、市商店街連盟の4団体が、日本一の難壇を目指して始めた新プロジェクト「伊東MAGARI 雛&KA GUYA 雛」に連携して取り組みました。「MAGARI(magari)雛」とは、伊東市佛現寺の階段110段(伊東=110の語呂合わせ)に雛人形を飾ったもので、「魔を狩る」という意味から名付け、訪れた皆様に「幸運がありますように」との願いをこめています。

本プロジェクトにおいて、観光学部はイベント時の運営補助やアンケート調査等の活動を行いました。本学は、このプロジェクトの活動を、将来のグローバルな観光人材を目指して学ぶ学生たちにとって有意義な機会にするとともに、このプロジェクトの活動を通じて、伊東市の観光産業振興に貢献をしていきたいと考えます。



プロジェクトの調印式

産学官連携

本学が一般用医薬品セルフメディケーション振興財団の助成事業に採択

城西国際大学薬学部の山村重雄教授が推進する、OTC医薬品(医師による処方箋なしに購入できる一般医薬品)を用いた患者ケアを「実務研究」として確立するための啓発事業「ワークショップ:OTC医薬品を用いた実務研究の実施方法」が、公益財団法人 一般用医薬品セルフメディケーション振興財団により、平成24年度助成事業に採択されました。

今回の助成を受けてこの啓発事業を進めることにより、薬剤師および薬学生がOTC医薬品に対する理解を深め、OTC医薬品を用いたセルフメディケーションの普及・啓発活動を通じて実務研究を実践できるスキルの獲得を目指します。

日本におけるOTC医薬品を取り巻く教育、制度、環境はまだ十分とはいえない状況にあります。そこで、本助成による研究の一環として、カナダのアルバータ大学のRoss Tsuyuki教授と、サスカチュワン大学のJeff Taylor教授を招聘し、2012年12月1日と2日に本学紀尾井町キャンパスにてワークショップが開催されました。カナダでの事例に基づき、OTC医薬品に関する知識やスキルの教授方法について紹介いただきました。日本ではまだOTC教育が十分になされていない状況を鑑み、今後の薬学教育のあり方を考えさせられました。

カナダでは州によって違いがあるものの、薬剤師は医師から独立して医薬品の処方や、薬剤変更、注射薬の投与などができるなど、日本の薬剤師との職能に大きな違いがあるようです。

これまでの実績に基づくTsuyuki教授とTaylor教授のワークショップでの発言内容は、参加した多くの薬剤師や薬学生に大きな感銘を与えていました。



ワークショップのようす

国際アドミニストレーション専攻公開講座「資生堂のイノベーション戦略」開催

2012年6月22日、東京紀尾井町キャンパスにて城西国際大学大学院国際アドミニストレーション専攻の公開講座「資生堂のイノベーションへの取り組みと中国ビジネスについて」を開催しました。

今回の公開講座は、学校法人城西大学イノベーションセンターがコーディネートし、城西大学経営学研究科、城西国際大学経営情報学部グローバル・フロント・プロジェクトとの合同講座として開催されたもので、紀尾井町キャンパスの他、サテライトシステムを通して坂戸キャンパス、東金キャンパスにも送信され多くの学生が受講しました。

講師に(株)資生堂 中国事業部参与 寺尾友規氏を迎え、資生堂の歴史、海外化粧品事業の軌跡、アジアを代表するグローバルプレイヤーとしての中国市場開拓の軌跡と現状、今後の中国事業戦略等についてのお話をいただきました。巨大な中国市場開拓へ向けての取り組みに関しては、これまでの市場開拓の歴史や、チャンネル別・エリア別マーケティングの経緯をベースにした長期的視野に立ったブランド戦略強化についてのお話があり、その取組の一つとして中国で制作されたCMも講義内で紹介されました。また、今後のさらなる事業基盤構築に向けた各種リスク管理、人材育成策、CSR活動の強化などの取り組みも紹介されるなど、実際の事業戦略に基づいた数々の貴重なお話を聞くことができ、広く経営学や企業のグローバルビジネス戦略を学ぶ学生たちにとって、大変充実した内容の講座となりました。



講演する資生堂 寺尾氏

中欧との交流

ラウル・ワレンバーグ生誕100周年記念植樹式

第2次世界大戦中のナチスによるユダヤ人虐殺から、約10万人もの命を救ったスウェーデンの実業家ラウル・ワレンバーグ氏の功績を称えて、2012年10月25日に城西国際大学東金キャンパスにおいて「ラウル・ワレンバーグ生誕100周年記念植樹式」を行いました。今回の植樹は、ワレンバーグ氏の歴史的偉業を学生たちに関心を持ってもらうため、スウェーデン、イスラエル、ハンガリーの3大使館が共同で企画し、ハンガリーを含む中欧の大学と交流の深い本学にて行われたものです。



植樹のようす

ワレンバーグ氏は1912年生まれのスウェーデン人で、ナチスに占領されたハンガリーに、スウェーデンの外交官として赴任後、保護証書をユダヤ人に配布するなど、ユダヤ人の救出に奔走しました。1981年、アメリカがワレンバーグ氏に名誉市民権を授与したほか、カナダ、イスラエルでも名誉市民となりました。



挨拶をするハンガリーのコヴァーチ・ゾルターン行政・法務副大臣

当日は、ハンガリーのコヴァーチ・ゾルターン行政・法務副大臣をはじめ、イスラエルのニシム・ベンシトリット大使、スウェーデンのラーシュ・ヴァリエ大使、ハンガリーのセルダヘイ・イシュトバーン大使3か国の大使らが出席して、ワレンバーグ氏の信念に基づいた生き方を象徴する約5歳の白樺を皆で植樹しました。

式典の後、水田記念ホールにてNPO法人ホロコースト教育資料センターの石岡史子氏による記念講演会「10万人を救ったラウル・ワレンバーグ～行動力で世界を変えた人」が行われました。ワレンバーグ氏の功績やその活動内容、ホロコーストの恐ろしさなどが映像を交えて説明され、国際関係に関心を持つ500人余りの学生が熱心に聴いていました。

水田理事長がブダペスト商科大学より特別名誉教授を授与

2012年11月8日、ハンガリーを訪問中の水田宗子理事長は、ブダペスト商科大学において、同学の特別名誉教授 (Professor Honoris Causa) を授与されました。



授与と共に祝福を受ける水田理事長

本学とブダペスト商科大学は、2007年1月に学術交流協定を締結して以来、交換留学や交流プログラムの実施など、様々な形で積極的に交流を展開してきました。今回の特別名誉教授は、これまでの両学の交流における水田理事長の多大な功績に対して授与されたものです。なお、特別名誉教授はブダペスト商科大学では最高の称号であり、過去にもわずか3名しか授与されていない大変価値のあるものです。

授与式には、エヴァ・シャンドル・クリスト学長をはじめ各学部長らが出席し、エヴァ学長から水田理事長に特別名誉教授の証書とトロフィーが授けられました。引き続き、今回の授与を記念して水田理事長が「21世紀グローバル社会における女性の役割の変容」というテーマで同大学の学生や教職員に講演を行いました。

中欧との交流

ポーランド大統領夫人が来学、講演

2012年4月12日、ポーランド共和国 アンナ・コモロフスカ大統領夫人ご一行が学校法人城西大学の東京紀尾井町キャンパスに来学し、講演を行いました。



講演される大統領夫人

本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げ、ハンガリーやポーランドなどの中央ヨーロッパの国々との学術交流を積極的に深めており、2012年2月にはポーランド大使も来学しました。今回の来学は初来日した大統領夫人の公式行事として実現したものです。今回は大統領夫人の他、ポーランド人道アクション理事長のヤニナ・オホイスカ氏らが来学しました。

地下ホールにて大統領夫人とオフィスカ理事長の講演が行われました。最初に大統領夫人から、国連の「児童の権利に関する条約」制定の基となったポーランドの「こどもの権利の活動家ーヤヌシュ・コルチャック先生」に関する講演をしていただきました。

つづいて、オフィスカ理事長より「女性のリーダーシップとポーランド人道アクションの活動」と題した講演が行われました。講演には福祉を幅広く学んでいる城西国際大学福祉総合学部の学生をはじめ両大学から多くの学生等が出席して熱心に講演に耳を傾け、質疑応答でも積極的に質問が出ていました。

今回の大統領夫人の公式訪問を機に、今後の本学とポーランドの大学との交流がより活発に進むことが期待されます。

チェコ国立銀行副総裁が来学、講演

2012年10月16日、チェコの国立銀行副総裁ヴラジミール・トムシーク氏が東京・紀尾井町キャンパスに来学し、講演を行いました。



講演されるトムシーク副総裁

10月9日から日本で開かれた国際通貨基金 (IMF) ・世界銀行年次総会に出席のためトムシーク副総裁が来日されているのを機に、本学とチェコ共和国の教育交流の一環としてフィアルコヴァー大使らと共に今回来学されたものです。

当日は、キャンパスの玄関でチェコの国旗を振る多数の学生たちがお出迎えしました。そして講演に先立ち、理事長や本学関係者達との面会が行われ、本学の紹介やチェコとの交流状況等についての説明、意見交換等を行いました。

その後、城西大学、城西国際大学の学生・教員ら150名が待つ地下ホールにて副総裁より「チェコ経済と金融政策、欧州債務危機の衝撃」と題したご講演をいただきました。講演では、チェコ経済の概要・特長や、経済危機におけるチェコ経済と国立銀行の金融政策、今後のマクロ経済の見通し、欧州経済危機のインパクトなどについて貴重なお話をいただきました。出席していた学生たちは皆熱心に講演に聞き入り、講演後には活発な質疑応答がありました。

また、講演終了後のレセプションにおいても、各国からの留学生を含む本学の学生らがスピーチや意見交換などで副総裁や大使らと積極的に交流し、大変充実した国際交流の機会となりました。

中国との交流

中国 大連理工大学、大連高級経理学院、大連外国語学院で水田桜の植樹式

2012年5月28、29日、水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学大連訪問団一行は大連理工大学、大連高級経理学院、大連外国語学院をそれぞれ訪問し、水田桜の植樹式を行いました。

学校法人城西大学では、鴨川市の嶺岡林道において、今から37年前に創立者の水田三喜男先生が地元の皆様と共に植樹した500本の「水田桜」の保護と林道の活性化を目的に、2006年に「嶺岡林道桜並木修復プロジェクト」を立ち上げ、毎年新しく桜の植樹を行っています。水田桜は、現在では約580本の桜並木に修復され、地元のみなさんに感謝され親しまれています。

今回、日中国交正常化40周年並びに城西大学と各大学との交流・友好の証として、この水田桜の植樹が行われました。

大連理工大学では、水田理事長、村井隆顧問と大連理工大学の張徳祥党委書記、寧桂玲副学長らが、留学生宿舎の前に20本の桜の苗木を植えました。大連高級経理学院では、院長を務める林安西先生らと共に、正門を入ったすぐの中庭で桜20本の植樹式を行いました。大連外国語学院では広大な旅順キャンパスの真ん中にある大きな池の周囲に、水田理事長と村井顧問が、柳振万書記、孫玉華学長らとともに60本の桜を植樹しました。

今後の各大学での水田桜の成長とともに、本学との交流がこれまで以上に一層深まっていくことが期待されます。



大連理工大学での水田桜の植樹式

中国 東北大学より名誉教授を授与、同大学のシンポジウムで特別講演

2012年9月5日、中国・瀋陽を訪問中の水田宗子理事長は、中国 東北大学より名誉教授の称号を授与されました。

本学と東北大学は2010年8月に学術交流協定を締結し、以降さまざまなかたちで学生や教員の交流を積極的に行ってきました。また、2010年に両大学に加えて、大連理工大学、大連外国語大学の連携による日中連携大学院を開設し、本学での集中講義を含めてこれまで多くの留学生が本学で学んできました。

今回の名誉教授の称号授与は、これらの活動を通じた両大学の交流に対する水田理事長の貢献・実績が高く評価されたものです。

また、翌日6日には、東北大学が主催するシンポジウム「融合・共生・インタラクション—第3回 中日文化比較研究国際シンポジウム」に出席し、水田理事長が「記憶と文学：トラウマとしての記憶とポストメモリーとしての記憶の文学 大庭みな子の『浦島草』』と題した特別講演を行いました。本シンポジウムは、東北大学主催、城西国際大学日本研究センター、相愛大学、大連理工大学日本学センターおよび大連外国語大学中日比較言語文化研究所の共催で行われたものです。



名誉教授証書を受け取る水田理事長



特別講演のようす

中国との交流

JOSAI グローバル女性人材育成プログラム大連研修

学校法人城西大学は、城西大学50周年、城西国際大学20周年を記念して2012年度から「JOSAI グローバル女性人材育成プログラム(JEWEL)大連研修」を始めました。このプログラムは、一般社会人女性や城西大学・城西国際大学の女子大学院生を参加対象者として、女性たちにグローバル社会で活躍する機会を提供し、さらに国際的視点やコミュニケーション力を育成しようとするものです。また、国際社会における女性の社会進出や地位の向上、ワークライフ・バランスも研修のテーマとなっています。

研修には13名が参加し、約1ヶ月の国内事前研修後、5月3日～7日で中国・大連にて現地研修を行いました。大連市人民政府、大連市婦女連合会、大連理工大学の協力のもと、市政府の女性幹部・女性経営者との意見交換会、若者文化・衣食文化についての講義ならびに市場動向調査、美容整形センター、スーパーマーケットを訪問し、働く女性の視点から中国大連の政治、経済、文化を学びました。また、203高地、旅順博物館、満鉄本社跡などを訪れ、中日近代史の足跡もたどっています。大連研修では、現地政府、女性たちの「熱烈歓迎」を受け、日中女性の活発な情報交換を行うことができました。

今回、参加した社会人は、マスコミ、法律、教育、企業など幅広い分野で活躍する女性たちです。こうした社会人と大学院生が、それぞれの立場を越え、「女性」として共有できる問題意識を明確にし、意見交換を行うことができたことは研修の大きな成果となりました。



大連市政府とのミーティング

大連理工大学にて“向坊隆記念”村井隆奨学金 “水田三喜男記念”水田宗子奨学金授与式、水田三喜男記念文庫贈呈式

2012年5月28日、水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学大連訪問団一行は大連理工大学を訪問しました。

張徳祥党委書記をはじめ同大学の先生方のご出席のもと“向坊隆記念”村井隆奨学金、“水田三喜男記念”水田宗子奨学金授与式が行われ、大連理工大学大学院の両奨学生計37名に水田理事長および村井隆顧問から奨学金が贈呈されました。奨学生を代表して、管理経済研究科の何平さんが「奨学生に選ばれて大変感謝しています。世界のために役に立てるような人材になることを目標にこれからも一生懸命学んでいきたい」と挨拶しました。

引き続き、水田三喜男記念文庫の贈呈式が行われ、城西大学福島先生から大連理工大学の蘇敬勤先生に今回寄贈する文庫の目録が贈られました。この記念文庫は、戦後の日本経済復興から高度成長の時代において、水田三喜男先生が日本経済発展に大きく貢献された軌跡を辿ることができる図書から選書を始めて、今回までに累計645冊を寄贈しました。第8回となる今回は、政府系刊行物・白書類や城西大学・城西国際大学の紀要に加え、生産管理や品質管理、ロジスティック、サプライチェーンマネジメントなど日本の管理技術に関する図書類を多数寄贈しました。



懇親会で奨学生と歓談

アジアとの交流

マレーシア観光大臣に名誉博士記授与

2012年9月4日、城西国際大学東金キャンパスで行われた2012年度秋季卒業式において、ダト・スリ・ドクター・ン・イェン・イェンマレーシア観光大臣への名誉博士記授与式が執り行われました。

ン・イェン・イェン大臣は、2009年より現在の観光大臣としてマレーシアの観光振興に多大な功績を収め、先駆的な女性リーダーとして高く評価されています。本学と同国との国際交流プログラムの構築にも関わり、国際教育分野においてこれからのグローバル社会で、アジアの時代を見据えた多大なる尽力が評価され、今回の名誉博士記授与となりました。



理事長とン・イェン・イェン大臣

また、今回の名誉博士記授与を記念して、前日の9月3日、東京紀尾井町キャンパスにて講演会を行っていただきました。観光大臣と共に、駐日マレーシア大使のダト・シャハルディン・ビン・モハマッド・ソム閣下やマレーシア観光省・政府観光局の方々もお見えになり、両大学からの学生や教職員、政府・企業関係者ら招待客を含め約170名の出席のもと、地下ホールにて「21世紀におけるマレーシア観光の展望」と題した大臣の講演会が行われました。大使は「ツーリズムは、平和と調和のとれた国で成り立つものであり、観光は訪れた人に変化を促す触媒にもなるものです。城西国際大学は、ツーリズムの重要性に対応して観光学部を設立する先見性を持った大学であり、ぜひ今後も相互に協力していきたい」と話されました。

大臣は、本学と同国との国際交流プログラムの構築・支援にも尽力され、なかでも、トゥンク・アブドゥル・ラーマン大学は大臣のご紹介によって学術交流協定の締結に至り、本年度からいよいよ学生の交流が開始され、本学から約90名の学生がマレーシアに留学しました。

泰日経済技術振興協会と連携協力で合意

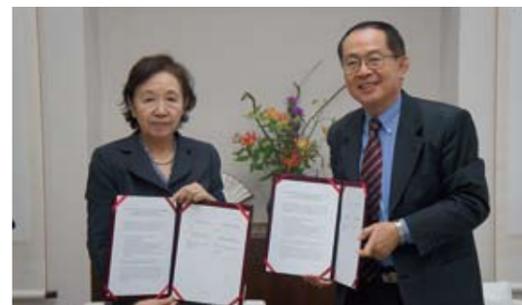
2012年10月3日、タイの「泰日経済技術振興協会」(略称TPA)のプラユーン・シオワッタナー会長が来学し、学校法人城西国際大学と同協会は「連携協力に関する合意書」を締結しました。

泰日経済技術振興協会は、元日本留学生・研修生が中心となり、タイ国の経済発展のため、日本からタイへの最新技術と知識の移転・普及、人材育成を行うことを目的に1973年に設立された公益法人です。そして設立以来、日本の産業育成のノウハウを用いた産業セミナーや工業計測、語学講座など、タイの中で日本の生産、生産管理技術を導入し、着実に成果を上げています。また、同協会は「日本型ものづくり大学」を目指して2007年に設立された泰日工業大学の母団体でもあります。

本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界の様々な大学と積極的に国際交流を深めており、最近では特に中欧やアジアでの国際交流を強化しています。

今回のプラユーン会長と水田理事長の会見で、今後両機関で教職員や学生・研修生の交流や語学研修、両国文化交流などのグローバル人材育成に関する諸事業に取り組む他、両機関での共同研究や両国の中小企業関係者の相互交流などにも取り組んでいくことを確認しあい、合意書に締結しました。

今回の合意を契機に、今後、本学とタイの大学の間でさまざまな学術交流が始まるが大いに期待されます。



合意書の締結をする水田理事長とプラユーン会長

アジアとの交流

マレーシア英語集中研修プログラムに90名の学生が参加

城西大学および城西国際大学は、2012年9月1日～16日の約2週間の日程で、マレーシアにて英語集中研修プログラムを実施しました。

本学は、グローバル人材の育成を目指し、海外の様々な大学と学術交流協定を結んで多様な国際交流を行なっていますが、今回はその一環として両大学の学生たちの英語力と異文化理解の向上を目指して、本学と学術交流協定を結んでいるトゥンク・アブドゥル・ラーマン大学(UTAR)で英語漬けとなる研修を行いました。

マレーシアは、多文化・多民族が共生しているため英語が共通語として使われており、グローバル人材の育成には最適な国の一つです。本学もマレーシアとの交流を強化しており、現在UTARを含めた4つの大学と学術交流協定を締結しています。

今回は、城西大学および城西国際大学から合計約90名もの学生が参加し、UTARの英語教員が主体となって研修が行われました。授業は、英語レベル別に5つのクラスに別れて1日6時間×10日間というハードな集中講義でしたが、英語によるゲームやディスカッションなども含め、学生たちは楽しみながら英語力を高めることができました。また、英語以外にもペラ州の地域振興について学んだり、UTARの学生たちとの交流を通じて様々な文化を体験して海外を肌で感じて多文化社会理解と国際交流を深め、これまで以上にグローバルな視野を身につけることができました。



英語集中研修プログラムの様子

インドネシアでのAsia Summer Programに参加

学校法人城西国際大学は、インドネシアのペトラ・クリスチャン大学、韓国の東西大学、マレーシアのユニマツ工科大学、タイのバンコク大学とAsia Summer Program2012を共同開催しました。

このプログラムは、従来の語学研修だけでなく、英語を用いて東南アジア諸国の経済、農業、環境、工学などの多岐にわたる専門科目を学ぶことを目的に開催されたもので、第1回目となる今回は、インドネシア第2の都市であるスラバヤ市にあるペトラ・クリスチャン大学にて、2012年7月16日～8月3日の日程で行われました。本学からは城西国際大学、城西国際大学から18名が参加し、参加7大学合計で約150名が一同に介しました。

参加した学生たちは、「インドネシアの中小企業」「スラバヤのビジネス」「米や食物の経済学」「イノベーションと経済学」「持続可能なエコ素材」「インドネシア語」等の幅広いテーマを英語で学びました。

プログラム最後の3日間は、インドネシアの文化に触れることのできる授業が開催され、パティク染め(ジャワ更紗)、伝統舞踊、伝統武道などを体験しました。また、週末にはインドネシアの文化や食文化を伝える催しも開催され、食を通じた異文化交流も体験しました。

参加した学生たちは、今回のプログラムを通じてアジアの国々からの大学生と交流を深め、文化や宗教の多様性、他者との共生について学び、国際社会におけるリーダーシップの基礎を身に付けることができ、本学の目指す「グローバルに貢献できる人材育成」教育の一つとして、貴重な機会を得ました。

Asia Summer Programは、参加大学が持ち回りで開催することになっており、次回は、2013年の夏に韓国の東西大学で開催が予定されています。



伝統染物の授業を終えて

広がる国際交流

アン・カプラン博士と、ルイス・レムコウ博士に本学名誉博士記を授与

2012年4月3日、城西国際大学は、本学の国際交流活動に多大なご貢献をいただいた、前米国・ニューヨーク州立大学ストーニー・ブルック校人文学研究所長のアン・カプラン博士と、前スペイン・バルセロナ自治大学環境科学・技術機構長のルイス・レムコウ博士に本学名誉博士記を授与しました。

アン・カプラン博士は、フェミニスト理論の映画評論分野における先駆的研究者であるとともに、全米メディア映像学会の会長として、メディア新時代の映像表現の発展に尽くしてこられています。また、ルイス・レムコウ博士は、バルセロナ自治大学の拡充発展に力を尽くされ、文化学術交流の促進、国際協力並びに国際教育の推進に多大な功績を残されると同時に、多くの国際的研究プロジェクトを手がけられ、国際的に高く評価されています。

式では、お二人のこれまでの国際的な学術研究活動および本学への多大なる貢献を称え、水田理事長より名誉博士記およびメダルと記念のトロフィーが授与されました。

また、翌4日には、今回の授与を記念して、両博士による「記念講演会」が開催されました。まずはじめにカプラン博士が「映画における未来形ディストピア世界の想像力：『人類の子供たち』(2006)を中心に」というタイトルで講演を行いました。

次に行われたレムコウ博士の講演では、地球規模の「気候変動」の問題が、最近200年間という地球の歴史からみると極めて短い時間の中で、自然現象ではなく人為によって引き起こされていることが明らかになってきたことや、世代間を超えて持続可能な発展を達成するための「環境リスク」としての認識の下、気候変動は「社会的正義」の問題としてとらえる必要のあることなどについて鋭い洞察力と示唆に富むお話をいただきました。



アン・カプラン博士とルイス・レムコウ博士



カプラン博士の講演



レムコウ博士の講演

【ゼッターリング・プロジェクトをスタート】

レムコウ博士は、母親であり著名なスイスの映画監督・女優として広く知られるマイ・ゼッターリング(1925-1994)氏の監督作品を世界に広める活動を行っています。

マイ・ゼッターリングはスウェーデン生まれで、1940年代から90年代までの長い間映画やTVで女優として多くの作品に出演しました。また、1960年代からは映画監督としても活動しました。

今回の名誉博士号授与にあたり、レムコウ博士から本学へのお礼として、ゼッターリング氏関係の一切の著作権が寄贈されました。

これにより、今後本学での「ゼッターリング・プロジェクト」を通じて、レムコウ博士より送られたゼッターリング監督の資料一式のアーカイブ、シンポジウムの開催などに、本学日本・アジア映像研究センター、ジェンダー・女性研究所などを中心としたチームで取り組んでいきます。



マイ・ゼッターリング(1925 - 1994)

広がる国際交流

薬学部のノウハウを生かし、オリジナルの紅茶と石鹸を開発

城西大学薬学部では、薬学関連のノウハウを活かし、本学の国際交流にちなんだオリジナルハーブティーとパンダンリーフ石鹸をこのたび開発しました。

【V4オリジナルハーブティー】

本学との国際交流で縁の多い中欧のヴィシエグラード4カ国(V4:チェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキア)にちなんだハーブを用いた、ヘルシーな紅茶(ハーブティー)です。紅茶の原料となる「茶の木」の学名Camellia sinensisにちなんで、この紅茶を「Camellia JU Tea」と名づけました。紅茶をベースにリラックス効果があるアロマなども取り入れ、誰もが安心して美味しく飲める香り豊かなお茶に仕上げました。そして、午後のリフレッシュ時に合う「Camellia JU afternoon Tea」と、就寝前に最適な「Camellia JU bedtime Tea」の2種類に仕上げられています。



V4オリジナルハーブティー

【パンダンリーフ石鹸】

本学は、2010年にマレーシアのマネジメント&サイエンス大学と学術交流協定を締結し、本学薬学部と教員および学生の交流を続けています。さらに2011年には、同国観光大臣・イエン・イエン氏が東京紀尾井町キャンパスに来学、その後もマレーシアの他大学との協定も締結するなど、近年マレーシアの大学と活発な交流を行っています。



パンダンリーフ石鹸のパッケージ

それらにちなんで、その葉の独特の甘い香りから東南アジアでは非常に人気があるハーブである「パンダン」を原材料にした「パンダンリーフ石鹸」を開発しました。パンダンリーフ特有の甘い香りの固形石鹸はマレーシアでも非常にめずらしく、その使用感とあわせてマレーシア観光大臣やマレーシアからの交換留学生からも好評を得ています。

今回の2種類のオリジナルグッズの開発は、本学ならではの薬学ノウハウを生かして国際交流をさらに加速することに加え、学生に様々な視点から研究成果を社会に活かす方法を学んでもらうことが大きな目的になっています。

さらに広がる国際教育交流ネットワーク

学校法人城西大学は、さらなるグローバル人材の育成を目指して2012年度に海外の11大学と新たに学術交流協定を締結しました。今後、これらの大学との教育および研究の諸分野における学術交流や、教職員および学生の交流が活発に展開されることが大いに期待されます。

なお、本学の海外の学術交流協定校は合計で99校になり、国際教育交流ネットワークがさらに充実しました。

〈2012年度の学術交流協定締結校一覧〉

- ・ 4月 ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校
- ・ 6月 セグド大学(ハンガリー)
- ・ 7月 ペトラ・クリスチャン大学(インドネシア)
- ・ 7月 マレーシア・プルリス大学
- ・ 10月 香港城市大学(中国)
- ・ 10月 マラ工科大学(マレーシア)
- ・ 11月 ウッチ大学(ポーランド)
- ・ 12月 ベルゲン大学(ノルウェー)
- ・ 1月 バンコク大学(タイ)
- ・ 2月 台北城市科技大学(台湾)
- ・ 3月 パンダン工科大学(インドネシア)



ポーランド・ウッチ大学との調印式にて

子どもたちとともに(次世代育成)

福祉総合学部 第2回全国高等学校「絵本コンテスト」開催

2013年2月8日、城西国際大学にて第2回 空とぶクジラ大賞 全国高等学校「絵本コンテスト」が開催されました。

このコンテストは、全国の高校生を対象に絵本の新たな可能性を拓くことを目的に実施されているものです。絵本は、子どものみならず福祉総合学部が対象とする高齢者や障がいをもった子ども・大人など様々な人々に力や癒しを与えるものです。

審査委員に日本サッカー協会最高顧問の川淵三郎氏、作家のアーサー・ビナード氏をお迎えし、厳正な審査が行われた結果、大賞1作品、その他11作品が受賞し表彰されました。空とぶクジラ大賞は、鈴木ひかるさん(千葉学芸高等学校)の「ゆきのトナカイ」が受賞しました。



授与式を終えて



「ゆきのトナカイ」

講評では川淵氏から絵本の起承転結の「結」の部分若くは発想で作りあげてほしい、アーサー・ビナード氏からは言葉の向こう側にある世界を観察し、深めてほしいというお話を頂戴しました。人の生き方に深く関わる福祉専門職を育成する本学の福祉総合学部は、高校生の心を磨く絵本制作を応援します。

今後、空とぶクジラ大賞作品は絵本として印刷製本される計画で、様々な子どもたちへの読み聞かせの場面で活用されることでしょうか。

- 【受賞者】**・空とぶクジラ大賞 1点 千葉学芸高等学校「ゆきのトナカイ」鈴木ひかるさん
 ・優秀賞 3点 千葉県立大網高等学校「虹どろぼう」中村幸奈さん
 東北生活文化大学高等学校「くつした」栗崎史帆さん
 神奈川県立上矢部高等学校「くっついてみて」後藤真由さん

国際人文学部 第4回高校生小論文コンテスト

城西国際大学では、2012年11月3日、「吉増剛造賞第4回高校生小論文コンテスト」の表彰式を東金キャンパスで行いました。

今回のテーマは、「グローバル時代の〈絆〉」でした。東日本大震災を経験した日本では、〈絆〉の重要性があらためてさげられるようになりました。グローバル時代に生きる高校生が〈絆〉をその若々しい感性でどのようにとらえているのか、まとめていただきたいと考え、吉増剛造賞 第4回小論文コンテストへの応募を呼びかけました。

今回は合計654篇(うち国際部門23)の応募があり、そのなかから吉増剛造賞の森永伊緒太さん(北九州工業高等専門学校)はじめ優秀賞2名、佳作6名、奨励賞7名、国際部門賞3名が選ばれました。

表彰式当日は、賞状と記念品が授与され、水田宗子理事長と柳澤伯夫学長からそれぞれお祝いの言葉が、吉増教授からは講評が述べられました。また、国際部門賞受賞者の中から中国・甘泉外国語中学の周心妍さんに、国際文化学科3年生の山口さんが電話で受賞の喜びをインタビューしました。式後に、吉増教授による柳田国男についてのミニレクチャーも行われました。

今回のコンテストは、高校生の皆さんとともに改めて〈絆〉について考える良い機会となりました。

- 【受賞者】**〈最優秀賞〉 森永伊緒太さん(北九州工業高等専門学校1年)「家族の絆」
 〈優秀賞〉 中野優花さん(埼玉県立伊奈学園総合高等学校2年)「〈気綱〉と〈絆〉」
 渡邊唯以さん(八王子学園八王子高等学校1年)「グローバル時代の〈絆〉」



授与式を終えて

子どもたちとともに(次世代育成)

日本スプリント学会を城西大学で開催し、陸上部が学会運営

2012年12月22・23日、城西大学の坂戸キャンパスにて、日本スプリント学会大会が開催され、指導者の方々や研究者、地域の高校生中学生など、300名が参加しました。日本スプリント学会は、陸上競技の中でも短距離、ハードル種目をターゲットにした研究を対象とする学会で、スポーツ科学研究者だけでなく、指導者、中学校や高校の指導者、現役選手、愛好家などで構成されています。今回の学会では、本学陸上部が会場の設営や物品の準備、当日は受付から進行のサポートなど、大会運営のほとんどを担当しました。

今大会のテーマとなった男子4×100mリレーは、2008年の北京オリンピックで銅メダル、2012年のロンドンオリンピックでも5位入賞を果たした日本のお家芸種目です。学会大会初日には、オリンピック4大会出場の朝原宣治さん(大阪ガス)、同3大会出場の高平慎二選手(富士通)、長年日本男子スプリントを率いてこられた高野進先生(東海大学)などそうそうたるメンバーによるシンポジウムが行われ、この20年にわたる日本リレーチームの取り組みを振り返りました。

また、2日目には総合グラウンドにてワークショップ「4×100mリレーバトンスのトレーニング」が開かれ、地域の中学校・高校のアスリート150名が参加して実技指導が行われました。そこでは日本インカレと日本選手権リレー両大会で準優勝した、本学陸上競技部のリレーメンバーがデモンストレーションを行いました。

また、2度の世界陸上銅メダルを獲得した、400mハードルの為末大さんの引退記念講演や一般研究発表などが行われ、いずれも参加者から大変好評でした。

本学は野球、駅伝などの種目に続き、陸上競技部も着実に結果を残しつつあります。今回の学会によって多くのスプリント関係者に城西大学を知っていただく事ができたと同時に、本学陸上競技部の学生にとっても、今学会大会を運営することで大変貴重な経験を積むことができました。



本学陸上競技部のバトンスデモンストレーション



為末氏の記念講演

坂戸市立保育園でかるたを使った食育活動

城西大学薬学部医療栄養学科の学生で構成されるサークル「管理栄養士の卵サークルDHA」の学生6名が、2012年8月30日に地元の坂戸市立城山保育園を訪問して、園児たちに「みんなで栄養かるた」を活用した食育活動を行いました。

「みんなで栄養かるた」は、医療栄養学科三期生のDHA初代メンバーが手作りした食育目的のかるたです。子どもたちが、かるたを楽しみながら食べ物や栄養について学べ、さらに文字や数、集団行動のルールについても学べる様に作られています。

今回の訪問活動では、まだ文字が読めない子どもでも分かるように、大きな絵札やかるたの中に登場する実際の食品を用意したり、また、クイズ形式で質問に答えてもらうなどの工夫をして、子どもたちも皆目を輝かせて栄養かるた遊びを楽しんでいました。終了後には、園長先生をはじめ保育士の皆さんと事後検討会を実施し、園長先生から今後も定期的な開催をお願いされました。



栄養かるたを使った食育活動

子どもたちとともに(次世代育成)

高校生向けに公開授業を実施

城西大学薬学部薬科学科(4年制)では、高校生の皆さんに少しでも薬学に、また城西大学に関心を持っていただくため、2011年度から高校生公開授業を開講しています。前期は「化学の授業」と「化粧品学の授業」を、後期は「生物学の授業」と「基礎栄養学の授業」を開講しています。

2011年度の公開授業には、埼玉県内の小松原高等学校と埼玉県立川越工業高等学校から計7名が大学1年生に混ざって受講し、2012年度は埼玉県立鳩山高等学校から1名が受講しました。

高校生が大学の通常授業に参加することにより、高校に向いて行く模擬授業等では得られない、現場で生の貴重な経験をすることができます。授業を履修し、試験に合格した場合には修了証が授与されます。2011年度は数名が立派な成績で合格しました。受講した高校生たちにとっては薬学への興味を持つきっかけになったとともに、合格した生徒たちは今後の学問への大きな自信になったことでしょう。合格した生徒のうち1名は、2012年度薬学科(6年制)に入学して、「化学の授業」に相当する「化学Ⅰ」の単位が認定され、授業は免除されています。また、2012年度は1名の高校生が「化学の授業」を受講して、やはり立派な成績を収めて修了証を授与されています。

なお、城西大学では、理学部化学科でも2010年度から同様の公開授業を行っており、高校生が大学生と一緒に「生活と化学物質」に関する講義を受けて学んでいます。



理学部での公開授業の様子

「お薬かるた」で薬の正しい使い方と、ドラッグ・タバコの危険性を啓蒙

城西大学薬学部では、子どもたちが楽しみながら薬に対する知識や大切さを学べる「みんなでお薬かるた」を制作しました。

2012年4月より実施された中学校学習指導要領は「次世代を担う子どもたちが、これからの社会において必要となる「生きる力」を身につけてほしい(文部科学省HPより抜粋)」との主旨で定められています。保健分野に関しては「個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる」ことが目標とされ、中学校での「医薬品の正しい使い方教育」が新たに盛り込まれました。

「みんなでお薬かるた」は、これらの指導要領や主旨にかなうべく、小・中学生たちがかるた遊びを通じて薬の重要性と危険性や、医薬品の「適正使用」「乱用防止」に関する知識を学んでいただくことを目的として、将来の薬剤師を目指して学んでいる薬学科と薬科学科の学生が中心となって作ったものです。このかるたでは、薬だけでなくドラッグやタバコのことでも盛り込まれています。未来を担う子供たちに、ドラッグやタバコは危険だからと目を背けるのではなく、その危険性を正しく伝えることに主眼を置いています。さらには、薬品全般に深くかかわることが期待されている「薬剤師の役割」についても盛り込まれています。

今後、このかるたを近隣の学校や地域の児童館・公民館などにも配布して使っていただく予定で、さまざまなところで広く使用していただくことで、次世代を担う子供たちが「医薬品の正しい使い方」を学ぶことに少しでも貢献できれば幸いです。



「みんなでお薬かるた」パッケージ

子どもたちとともに(次世代育成)

『子ども大学にしているま』を開校

城西大学理学部と薬学部は、小学生のための大学「子ども大学にしているま」を開校し、2012年11月3日と24日に坂戸キャンパスで子どもたちに講義・実習を行いました。

「子ども大学」とは、埼玉県の大学や市町村、企業・NPO、県が連携して、子どもの知的好奇心を刺激し学びの機会を提供する場です。2012年度は、県内22校で開催され、計約2,000人の子どもが参加しました。そのうちのひとつとして、初めて西入間地域で「子ども大学にしているま」が開校され、本学と明海大学が実行委員会に参加し、それぞれのキャンパスで講義や実習を行ったものです。

本学での講義には、坂戸市、毛呂山町、越生町の小学校5、6年生からの応募者40名が参加しました。子どもたちは最初に教員から話を聞いた後、学生たちのサポートのもとで色々な実験・実習にチャレンジ。プレゼントされた白衣を着て講義と実験に臨みました。

11月3日は理学部が担当し、「はてな学」と題した2つの講義と実習が行われました。「冷たすぎるとどうなるの? -196℃の世界」では、何でも凍る-196℃の世界での、いろいろな物の変化を調べました。続いての「見えない電気とじしゃくのはたらき:きょういとふしぎ」では、磁石の実験を通じて、見えない電気の力を調べました。子どもたちは、実験に驚きの声をあげたり、楽しそうな笑顔を見せたりしていました。

24日は薬学部の担当で、「はてな学、生き方学」として2つの講義・実習がありました。「薬剤師の仕事体験～ぬり薬をつくってみよう～」では、初めて実際に薬の調合を体験しました。次の「管理栄養士の仕事体験～今日の朝ご飯は明日、君の体になる!～」では、実物そっくりの食品模型を使い栄養価調査に挑戦しました。薬剤師、管理栄養士になることが夢の子どももいて、大好評でした。

また11月24日は、講義終了後に引き続き「子ども大学にしているま」修了式を明海大学と合同で実施。子どもたちに修了証を授与するとともに、本学から薬学部オリジナルの「お薬かるた」とジャムをプレゼントしました。



-196℃の世界を体験



管理栄養士を体験

高大連携の一環としての模擬講義実施

城西大学経済学部は、高大連携の一環として、埼玉県内の埼玉平成高校の生徒たちに、2012年度に5回の模擬講座を実施しました。この模擬講座は、「実際の大学の講義を高校生に体験させたい」という高校からの依頼に応じ、大学での学問を一人でも多くの高校生に知ってもらおうと共に、経済学の考え方の初歩を身につけてほしいとの思いで、2011年度にスタートしたものです。

模擬講義は、本学の講義室を使い、経済学部の5人の教員がそれぞれの担当科目の内容を易しく解説していきます。埼玉平成高校からは、経済・経営等の社会科学系の学部への進学を目指している2、3年生合わせて22名の生徒と、引率の先生2人の合計24名が参加しました。講義終了後、参加した生徒たちからは「今回の模擬講義で、経済学がいかにも実用的な学問なのか、また世の中を知る上での重要な手段であるのか」が解った。ぜひ大学で本格的に学んでみたい」という意見や、引率の先生方からは「今後はもっと多くの高校の教員も模擬講義にぜひ参加したい」との意見もあった。

2013年度は1ヶ月に1回程度模擬講義を開催する予定です。城西大学経済学部は、模擬講義をはじめとしてさまざまな形で高大連携を行うことにより、一層の地域貢献と次世代を担う若者たちを育てていくことを目指します。



模擬講義の様子

子どもたちとともに(次世代育成)

環境社会学部 アロマチャレンジカップを開催

2012年10月13日、城西国際大学環境社会学部主催による『アロマチャレンジカップ』を千葉・東金キャンパスにて開催しました。高校生や先生方、社会人など29組73名が参加し、香りの世界を楽しみました。

本大会は、環境社会学部が行っているアロマセラピーの学びをわかりやすく体験してもらうことを目的に開催されたもので、今回で2回目の開催となりました。アロマセラピーに関する基礎的な講義の後、実際に11種類の香りを用いてチームごとにオリジナルアロマの創出にチャレンジしました。

「香りのバランス、豊かさ、使いやすさ、作品のネーミング」の4つのポイントで審査と評価が行われ、厳正な審査の結果、城西国際大学賞には横芝敬愛高校3年生の伊藤さん、越川さん、林さん、野部さんの作品「フォレストティンクドソレイユ〜夢への扉〜」が、また日本アロマコーディネーター協会賞には千葉学芸高校の菅谷先生、佐久間先生の作品「鱗雲」が選ばれました。



アロマを作成する参加者たち

- 【受賞者】・城西国際大学(JIU)賞 (横芝敬愛高校3年) 伊藤 理菜さん、越川 友菜さん、林 恵里那さん、野部 環さん
作品名「フォレストティンクドソレイユ〜夢への扉〜」
- ・日本アロマコーディネーター協会(JAA)賞 (千葉学芸高校) 菅谷 友紀先生、佐久間 亜耶先生
作品名「鱗雲」

第12回水田三喜男杯争奪選抜高等学校柔道大会
第12回水田三喜男旗争奪選抜高等学校剣道大会

【第12回水田三喜男杯争奪選抜高等学校柔道大会】

2012年12月26日、城西国際大学東金キャンパスのスポーツ文化センターにおいて「第12回水田三喜男杯争奪選抜高等学校柔道大会」が開催されました。本大会は創立者の水田三喜男先生が勤しんでおられた柔道を通じて文武両道の精神を育み、心身ともに優れた人材を育成する活動の一環として2001年にスタートしたもので、全国の強豪校が集う大会として年末の風物詩となっています。

12回目となる今大会は、男子が決勝戦において3大会連続で桐蔭学園高校(神奈川県)と崇徳高校(広島県)の対戦となり、桐蔭学園高校が2大会連続の優勝を見事手中に収めました。

また、女子は前回大会準優勝の東大阪大学敬愛高校(大阪府)が初優勝を飾りました。

【第12回水田三喜男旗争奪選抜高等学校剣道大会】

2013年2月3日に「第12回水田三喜男旗争奪選抜高等学校剣道大会」が開催されました。本大会は3月に行われる春の全国選抜や、夏のインターハイを占うハイレベルな招待試合として、全国の高校剣道ファンから注目を集める大会となっています。今大会も全国より選抜されたチーム及び男子の部に韓国選抜チームを加えた男女32校が、水田三喜男旗の栄冠を目指し熱戦を繰り広げました。

結果は男子の部では高輪高校(東京都)が初出場で初優勝の快挙を達成。女子の部では昨年度本大会優勝、今年度のインターハイ優勝校の守谷高校(茨城県)を大将戦による激戦を制した東奥義塾高校(青森県)がうれしい初優勝を遂げました。



柔道大会の熱戦



剣道大会の熱戦

文化・出版を通しての貢献

山武郡市共同制作作品が2012年度千葉県メディアコンクールで最優秀賞

城西国際大学メディア学部メディア情報学科・クロスメディアコースが、千葉県山武郡市広域行政組合教育委員会・視聴覚教材センターと共同で行っている「山武郡市文化記録プロジェクト」から出品した映像作品「斗満の風にのって〜幕末から明治を生き抜いた医師・関寛斎の物語〜」が、2012年度千葉県メディアコンクールにて最優秀賞を受賞し、特別賞として「千葉県教育委員会教育長賞」を受賞しました。

同プロジェクトでは、これまでにこのコンクールにて優良賞1本、優秀賞3本を受賞するなど着実に成果を上げてきましたが、5年目となる今年度に、ついに念願の最優秀賞を受賞することができました。

本作品で取り上げた関寛斎は、現在の東金市東中出身で、18歳で佐倉順天堂の佐藤泰然のもとに入門し、外科手術を担当するなど、医師としての道を歩み、銚子で開業します。その後、長崎に留学、ポンペに弟子入りして蘭医学を学び、長崎養生所の設立、徳島藩の侍医、戊申戦争での奥羽出張病院頭取などを経て、徳島の町医者として医療に尽くした後、72歳の時、突然北海道の斗満に入植して活躍、今でも「開拓の父」と敬われています。

本作品は、東金市で開催された同氏の生誕180周年記念行事を皮切りにプロジェクトで3年をかけて取材、制作した力作です。

2013年1月24日に行われた受賞式には、指導をした江口正客員教授、在学中に制作を開始し、卒業後も制作を続け完成させた岡村智剛さん、ナレーションを努めたメディア学部3年生の大木香さんが出席し、壇上で表彰状とトロフィーを受け取りました。

これまでの本学制作による受賞作は、視聴覚教材センターを通じて県内外で教材として活用されており、今回の受賞作も千葉県の様々な学校で文学や地域を学ぶ視聴覚教材として幅広く活用されることでしょう。



晩年の関寛斎



表彰状とトロフィーを受け取って

『第11回 JCF学生映画祭』にてメディア学生作品入賞

2012年9月15日、鳥取県米子市コンベンションホールで『第11回 JCF学生映画祭』が開催され、学生映画の日本一を決定するコンペティションプログラム『学生映画アワード』において、城西国際大学メディア学部映像芸術コース2年中川寛崇さんの監督作品『雨男日記』が、上位5作品のひとつとして入選しました。『雨男日記』は、クラスでいじめにあっていた高校生の〈真〉が、ある日「何でも願い事を叶えてくれる」妖精に会い、〈真〉は復讐を試みるという作品です。

受賞作品上映で挨拶に立った中川さんは、作品の制作意図や見所を伝えました。作品上映後も、他大学の学生や映像業界で活躍する審査員の方々とも交流をし、大いに刺激を受けた一日となりました。



挨拶する中川寛崇さん

文化・出版を通しての貢献

ヘルベルト・プルチョウ 追悼シンポジウムおよび大庭みな子国際シンポジウム
「異郷への旅と物語」開催

2012年6月29日・30日の2日間、ヘルベルト・プルチョウ 追悼シンポジウムおよび大庭みな子 国際シンポジウム「異郷への旅と物語」が、城西国際大学国際人文学部、比較文化研究センターの主催により東京紀尾井町キャンパスで開催されました。

このシンポジウムは、城西国際大学と深いご縁があった日本文学研究者ヘルベルト・プルチョウ氏(元城西国際大学国際人文学部長、比較文化研究センター長、1939-2010)、女性作家大庭みな子氏(1930-2007)のお二人を偲び、城西国際大学創立20周年記念として行われたものです。今回のシンポジウムでは、「異郷への旅」をコンセプトに、2日間にわたって二人の業績や人生をたどりつつ、国内外の研究者や編集者による新しい研究成果の発表やパネルディスカッション等を多彩な視点から行いました。

初日の29日は、国際日本文化研究センターの笠谷和比古教授らが講演し、午後はUCLAのリピット水田清爾准教授をコーディネイターに、国内外の気鋭のプルチョウ、大庭みな子研究者5名がそれぞれの研究成果を発表しました。翌30日は、大庭みな子国際シンポジウムとして、水田理事長の基調講演等に続き、編集者の宮田穂栄氏やスミエ・ジョーンズ名誉教授、前日講演を行った海外の研究者達によって、大庭作品に関してのディスカッションが行われました。

2日間にわたってプルチョウ氏、大庭みな子に関するさまざまな研究発表や活発なディスカッションが行われたことに加え、来場された方々がさまざまなかたちでお二人の業績を振り返りながら偲ぶことのできた、充実したシンポジウムとなりました。



基調講演をする水田理事長



ディスカッションのようす



レセプションでのドナルド・キーン氏スピーチ

機関リポジトリで学術デジタルコンテンツを広く発信

機関リポジトリとは、大学の教育・研究・社会活動などの学術コンテンツをデジタル資料として保存、発信するもので、大学が生み出す知的成果を広く社会と共有し、社会に還元する役割を担っており、世界中で設置されています。日本では2007年に国立大学を中心に52校が設置しており、城西大学では、2009年1月より埼玉大学が運用する埼玉県地域共同リポジトリSUCRAに参加し、早くからコンテンツの登録を行ってまいりましたが、2010年2月より本学独自の城西大学機関リポジトリ「JURA」を立ち上げ、本学の教育・研究成果を世界に向けて積極的に情報発信しています。



国立情報学研究所の「最先端学術情報基盤構築推進委託事業」を受け ホームページ内のリポジトリ画面例でコンテンツの拡充に努め、現在では約4,000件におよぶ本学の教育・研究成果物を公開するに至っています。学内で発行される紀要や年報などは17誌を全文公開しており、その中には創立者水田三喜男先生の『城西経済雑誌』の「発刊の辞」も含まれています。その他、学術雑誌に掲載された論文や薬学部生涯教育講座の講演要旨集、公開講座のパフレットなども公開しています。科研費報告書や学位論文(博士)については過去に授与したものを含めてその多くを公開しています。

建築賞受賞

多数の建築賞を受賞しています

❖ 清光会館

1992年さいたま景観賞

清光会館は、新しい大学に求められる国際化・情報化に対応し、1992年に完成した城西大学の中核を担うシンボリックな建物です。

同年、秩父の丘陵を望むその美しい外観によって埼玉県景観賞を受賞しました。



❖ 清光会館

❖ 鋸南セミナーハウス

2005年度 第12回 千葉県建築文化賞「景観に配慮した建築物」
2006年 第32回 東京建築賞建築作品コンクール「優秀賞」

鋸南セミナーハウスは創立35周年を記念して、城西大学同窓会の協賛もいただき2004年に建設されました。

その心地よさと周囲の景観にふさわしい建物であることが評価され、千葉県建築文化賞と東京建築賞において「優秀賞」を受賞しました。



❖ 鋸南セミナーハウス

❖ 城西大学 経営学部棟

2008年 米国建築家協会 Merit賞

城西大学経営学部棟は、米国建築家協会(AIA: American Institute of Architects) ニューヨーク支部より2008年度メリット賞を受賞しました。

AIAは2008年度にはじめて教育的な建物(2001年1月11日以降完成の建物)についての部門を設け、その栄えある第一号を経営学部棟が受賞しました。



❖ 城西大学 経営学部棟

❖ JIUランドスケープデザイン

1996年日本建築学会賞
2006年度日本造園学会賞

城西国際大学では、自然景観と調和したキャンパスを目指してきました。そのランドスケープデザインに対し、「端正な中にも透明感と伸びやかさ」がある「成長するキャンパス」との評価を受け、日本建築学会賞と日本造園学会賞を受賞しました。



❖ JIUランドスケープデザイン

❖ 旧水田家住宅

2003年度 第10回千葉県建築文化賞

地域の特性や周辺環境に十分な配慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出したことを評価され第10回千葉県建築文化賞を受賞しています。



❖ 旧水田家住宅(母屋)

❖ 城西大学水田美術館

2012年米国建築家協会Merit賞
2013年アーキタイザー・アワード特別賞

城西大学水田美術館は、米国建築家協会ニューヨーク支部より、AIANY Design Awards2012のMerit賞を受賞しました。

また、インターネットによる世界最大の建築物のコンペティション「アーキタイザー」より、2013年アーキタイザー・アワードの特別賞を受賞しました。

本美術館は、学校法人城西大学45周年記念事業として建設されたもので、大学所蔵の美術品展示のみならず国際交流・地域交流をさらに発展させる芸術・文化の拠点です。



❖ 水田美術館外観

文化・出版を通しての貢献

2012年度 水田美術館の展覧会・講演会

水田美術館における2012年度の活動をご紹介します。

【城西国際大学水田美術館】

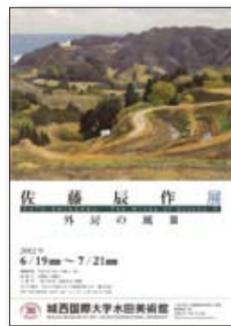
◆水田コレクション浮世絵展 結い髪

会 期：2012年5月15日[火]～6月2日[土]
 協 力：澤乃井櫛かんざし美術館
 内 容：江戸時代に花開いた結い髪の変遷を知る上で、流行の発信源である遊女や役者を題材とし、同時代の最新風俗をいち早く取り込んだ浮世絵は、まさに格好の絵画資料です。このたびの展覧会では、初期から明治時代までの浮世絵によって多彩な髪型を紹介しました。あわせて、澤乃井櫛かんざし美術館のご協力により、凝った意匠の櫛やかんざし、結髪雛型を展示しました。
 関連企画：日本髪の結髪実演会 5月25日[金]
 ギャラリートーク(当館学芸員による展示解説) 5月19日[土]、26日[土]



◆佐藤辰作展 外房の風 III SATO SHINSAKU The Winds of Sotobo III

会 期：2012年6月19日[火]～7月21日[土]
 内 容：房総の海を見つめ、描き続けてきた東金市在住の洋画家、佐藤辰作の作品を紹介しました。このたびの展覧会では、勝浦や太東岬の他、東金キャンパスにほど近い九十九里の砂浜を描いた近作を展示しました。柔らかいタッチの油彩作品をとおし、場所や季節、時間によりさまざまな表情をみせる房総の海をお楽しみいただきました。
 関連企画：作家によるギャラリートーク 7月7日[土]



◆コーシャ・フェレンツの世界 多元時空

会 期：2012年9月25日[火]～10月13日[土]
 内 容：コーシャ・フェレンツ(1937～)は、「一万の太陽」でカンヌ国際映画祭最優秀監督賞に輝いたのをはじめ、数々の賞を受賞し国際的に活躍するハンガリーの代表的な映画監督です。写真家としても2002年、ブダペストの国立ギャラリーで写真展が開催されるなど、注目を集めています。この度は、ハンガリーを始めとする欧州、日本、アジア、アフリカやアメリカなど、世界各地で撮影された写真作品を紹介しました。
 関連企画：トークイベント「ハンガリーの映画と写真」 10月5日[金]



◆江戸のスター参上! 役者絵のいろいろな楽しみ方

会 期：2012年11月3日[土]～12月1日[土]
 内 容：このたびの展覧会では、館藏品より、歌川国芳、三代歌川豊国、豊原国周らの江戸後期から明治時代にかけてのバラエティ豊かな役者絵を展示し、あわせて、「南総里見八犬伝」や「切られ与三郎」、「天保水滸伝」など、房総ゆかりの物語に登場するヒーローたちを紹介しました。
 大人から子どもまでを夢中にさせた役者絵の数々をお楽しみいただきました。
 関連企画：ギャラリートーク(当館学芸員による展示解説) 11月10日[土]、17日[土]



文化・出版を通しての貢献

【城西大学水田美術館】

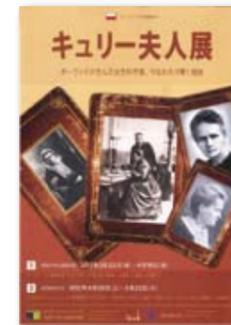
◆浮世絵版画のできるまで展

会 期：2012年3月22日[木]～5月19日[土]
 内 容：浮世絵の技巧の面に焦点を当て、浮世絵版画がどのように制作されるのか、完成までの流れを、摺の工程を中心に、版木や道具・絵具類などと共にご紹介しました。また、合わせて、アダチ版画研究所制作の浮世絵名品復刻版も展示し、300年の伝統を持つ木版画の洗練された技をご鑑賞いただきました。
 関連企画：摺り実演会(アダチ版画研究所) 4月14日[土]



◆キュリー夫人展 -ポーランドが生んだ女性科学者、今なお光輝く理由-

会 期：2012年3月22日[木]～4月19日[木]
 協 力：ポーランド大使館
 内 容：理学部・薬学部を持つ大学として、また、ポーランドに学术交流協定校を持つ大学として、放射能の研究と医学への応用に情熱を傾け人類の幸せを願ったポーランド出身の女性科学者キュリー夫人のパネル展覧会を開催しました。



◆錯視展 -数学で探る視覚の不思議-

会 期：2012年5月8日[火]～6月9日[土]
 監 修 者：新井仁之(東京大学大学院数理科学研究科教授 JST CREST)
 内 容：錯視は古くから多くの人によって研究されてきました。近年では、心理学、脳科学、医学や神経科学の分野で研究されています。本展では、数学からのアプローチに注目し、数学を使った錯視研究の最先端の研究成果を紹介しました。
 関連企画：講演+対談 6月2日[土]
 新井仁之(東京大学大学院数理科学研究科教授 JST CREST)×中村俊子(城西大学理学部数学科准教授)



◆高円宮妃久子殿下特別展 -空翔ける鳥、旅する根付-

会 期：2012年9月19日[水]～10月20日[土]
 内 容：バードウォッチングをご趣味とされ、鳥類環境保護活動に尽力されてきた妃殿下がこれまで撮影されてきた野鳥の写真をご覧頂きました。また、妃殿下は根付のコレクター、研究者としても功績を上げられており、これまで撮影されてきた根付の写真と、妃殿下の根付コレクションの中から現代根付を展示しました。



◆水田コレクション展 浮世絵の版元と出版

会 期：2012年10月30日[火]～11月10日[土]
 内 容：浮世絵版画の“版元印”は、版元の役割の重要性を物語ります。また、検閲の“改印”は、作品の刊行時期を知る情報源ともなっています。この度の展覧会は、浮世絵の“版元印”や“改印”に見られる小さな情報に注目し、浮世絵版画を出版の歴史から捉えました。
 関連企画：ギャラリートーク 11月3日[土]



「産・学でグローバル人材の育成強化を」

住友化学株式会社
代表取締役会長
米倉 弘昌氏



城西大学・城西国際大学は、かねてより、中国大連地域の大学との交流促進に積極的に取り組んでおられます。具体的には、大連理工大学において「水田三喜男記念文庫」ならびに「水田宗子奨学金」を創設されたほか、日中共同の人材育成プログラムとして大連・瀋陽の名門大学である大連理工大学、大連外国語学院、東北大学との間で日中連携大学院を運営されるなど、その取り組みは両国関係者の間で高い評価を受けております。

弊社では、日中連携大学院の趣旨に賛同し、2012年12月、日中間の文化交流および教育交流の推進と日中友好関係の深化に寄与することを目的とする覚書を学校法人城西大学と締結いたしました。寄付講座や論文作成のための調査・研究への支援を通じ、日中両国の懸け橋となる人材の育成に微力ながら貢献してまいりたいと考えております。

中国をはじめ世界のさまざまな国との交流を進めておられる城西大学・城西国際大学が、今後も真のグローバル人材の育成に大きな役割を果たしていられることを心より期待しております。

「美術館・博物館による文化継承と地域貢献」

国立西洋美術館
館長
青柳 正規氏



大学は人類が永年にわたって蓄積してきた知識や知恵を次世代へ引き継ぐという目的を担っています。また、私たちの先人が生み出した美術品や昔の生活の証である考古資料などを収蔵する美術館、博物館も先人の創造力や私たちの過去を具体的に知るうえできわめて重要です。そのような貴重な施設であるからこそ、大学周辺の地域や他の大学あるいは研究機関にも公開することが大切です。そうすることによって、収蔵品に関するさまざまな情報もたらされ、美術館、博物館自体がより充実すると同時に、地域社会や他の教育・研究機関とよりいっそう連携を深めることができるからです。

学校法人城西大学は、浮世絵のコレクションを中心とする両大学美術館や、薬草園、女性の手仕事ギャラリーなどを有する水田記念博物館を開設しておられ、この春にはさらに「大石化石ギャラリー」も設立されます。

これらの博物館の公開や情報発信を通じて、文化の継承と地域貢献、多層的な次世代育成にこれまで以上に精力的に取り組まれることを期待します。

「日本とポーランドの次世代人材育成を」

駐日ポーランド共和国大使
ツィリル・コザチェフスキ氏



中・東欧は、依然として日本の方々にとって身近な地域とは言えません。この事実は、同地域がヨーロッパ地図上に占める政治・経済的意義を増々強めているという事実と相反しています。ポーランドは中・東欧地域の大国であり、昨今目覚ましく進出している日本企業のみならず、学生並びに研究者にとりましても魅力的な国です。

今回行われた「V4+日本 東方セミナー」等を契機として、城西大学・城西国際大学と我が国の協力枠組みが形成されるのを機に、日本とポーランド間の学術交流が今後、飛躍的に発展することを期待致しております。まず第一に、企業でのインターンシップを含む斬新な大学交流プログラムの創設と、第二に、両国の研究機関による共同研究プロジェクトの導入があげられます。こうしたイニシアティブが、将来的に二カ国間の経済協力はもとより、両国社会の絆を強めるうえで、かけがえのない実りをもたらしてくれることを確信してやみません。

「両国の観光産業発展の架け橋に」



マレーシア観光大臣
ダト・スリ・ドクター・ン・イェン・イェン氏

学校法人城西大学では、早くからウェルネスツーリズムの重要性・可能性に注目して2006年に城西国際大学に観光学部を設立、日本における観光学の魁として、語学・IT・リスク管理も含めたウェルネスツーリズムの学びを展開されてきました。

また、すでにマレーシアの4つの大学と学術交流協定を締結し、語学研修を中心に、様々な教育プログラムを活発に展開しています。

昨年、私が城西国際大学から名誉博士号を授与された記念に、観光学部のある安房キャンパスを訪問した際も、学生たちが大変優れたホスピタリティーサービスを実践していたのがとても印象的でした。また、今後マレーシアのホテルや旅行会社などでのインターンシップや、マレーシアとの国際共同教育プログラムも開始されると聞いています。

マレーシアにおける国際教育のパートナーとして、今後も城西大学、城西国際大学との交流が深まり、両国の観光産業の発展につながるグローバル人材が数多く輩出されることを願っています。

編集後記

2012年度版学校法人城西大学社会貢献活動報告書をお届けできることを大変うれしく思います。本学が行ったさまざまな社会貢献活動をキーワードごとに分類し紹介いたしましたので、どうぞご覧ください。また、美術館関係と建築関係については、年度を超えて掲載してあります。

2008年に初めて社会貢献活動報告を作成し、それ以来毎年の作成作業を通じ、学校法人全体として自らの活動内容を把握し、その意義の確認をするとともに、反省や工夫を次年度へ活かすことができました。また、昨年度版までをご覧頂いた多くの方から、本学が行ってきた社会貢献活動に関して励ましやお褒めの声をいただいております。

今後も、大学を取り巻く方々との連携を取りながら、よりいっそうの地域・社会・国際貢献活動に取り組んでまいり所存です。

この報告書により城西大学・城西国際大学・城西短期大学の社会貢献活動にご理解をいただくとともに、皆様からの忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

学校法人城西大学 法人本部
社会貢献推進チーム
社会貢献活動報告書作成チーム

〈表紙デザインについて〉

城西国際大学セントラル・スパインのアメリカ楓の紅葉

城西国際大学は、2012年4月に創立20周年を迎えました。創立時に東金キャンパスに植えたセントラル・スパインに長く続くアメリカ楓が、大学の歴史とともに大きく成長し、昨秋は20周年を祝うかのようにひときわ燃え立つ赤の紅葉を見せてくれました。

開学のときに、心まっすぐに、国際性豊かなキャンパスを目指して植えられたアメリカ楓のもとで、秋の学園祭が毎年開催されています。現在、姉妹校99校からやってくる留学生たちによるさまざまな催しは、地域の方にも楽しみにされていて、多くの方が大学にいらっやいます。これからも世界と地域に開かれた大学として、発信力を高めてまいります。

